

「国民意識調査」 報告書

株式会社鎌倉新書
2021年1月

実施調査会社：株式会社ネオマーケティング

調査項目一覧

I. 調査概要	
II. 回答者属性	
III. 調査結果詳細	
Q1	お墓保有状況
Q2	お墓への交通時間
Q3	お墓の新設について
Q4	お墓の新設について
Q5	散骨の認知状況
Q6	散骨の節度について
Q7	散骨をした理由
Q8	焼骨の散骨について
Q9	散骨場所
Q10	散骨の立ち会い・見送りをした人数
Q11	散骨の確認状況
Q12	故人の散骨を行なった方との関係
Q13	故人と散骨を行なった方の関係
Q15	散骨の依頼を受けた場合
Q16	自身の散骨について
Q17	地元での散骨場建設について
Q18	散骨について
Q19	散骨のガイドライン作成について
Q20	散骨のガイドライン作成に考慮すべき点
Q21	住宅地から散骨場までに必要な距離
追加	お墓を持っている人の散骨に関する考え
F5	同居人数
F6	婚姻
F7	子供有無
F8	職業

注)Q14 自由記載のため集計していない。

I . 調查概要

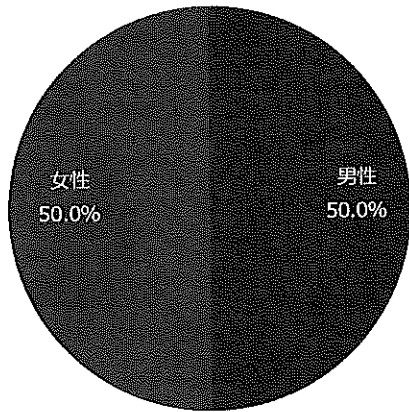
<p>調査目的</p>	<p>散骨に関する国民の考え方を把握するため、埋葬方法を自身や家族の身近な問題として認識する世代と思われる(40歳以上)の男女 1,000 人に対して、散骨等に対する意識についてインターネット調査を実施する</p>
<p>調査対象者</p>	<p>【対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の 40 歳～89 歳男女 1,000 人 ・散骨経験者 500 人 ・散骨未経験者 500 人 <p>【散骨経験者のサンプル数の設定について】</p> <p>一般的に、特定の対象を抽出する場合、400 人のサンプルで、調査結果の誤差とされる±5%を担保できるといわれているため、散骨経験者と未経験者でそれぞれ 500 サンプルを回収。</p> <p>【一般的なインターネット調査で対象を抽出する場合のサンプル数による誤差の目安の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100 サンプルの場合の誤差: ±10% (例えば、「良い」と回答した人が、60%だった場合、50～70%までを誤差として想定) ・400 サンプルの場合の誤差±5% (例えば「良い」と回答した人が、60%だった場合、55～65%までを誤差として想定= 一般的な許容範囲といわれる。)

<p>調査手法</p>	<p>インターネット調査 2020年10月30日(金)～2020年11月2日(月) 回答数:13,879人(散骨経験者500人を抽出するためスクリーニング調査を行った。) その結果、散骨経験者594人の中から500人(男性50% 女性50%)をランダムで抽出。同様に散骨経験なしの回答者より500人(男性50% 女性50% 各年代20%ずつ)をランダムで抽出して調査に活用 ※居住地や同居人などは、割り付けを実施してないためランダム抽出の結果となります。 ※散骨経験者は、回答者が少ないため年代別の割り付けは行わず性別のみ割り付けを実施しております。</p>
<p>調査結果の見方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・nは回答者数を表している。 ・回答率(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。このため、合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。 ・設問の回答には、単一回答と複数回答がある。複数回答の設問は、回答率(%)の合計が100%を超える場合がある。 ・nが30未満の数値は参考値とする。

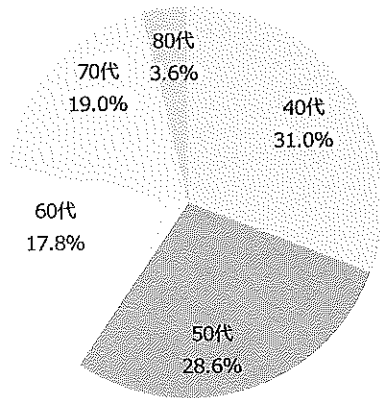
Ⅱ 回答者属性編

■ 回答者属性(散骨経験者 n = 500)

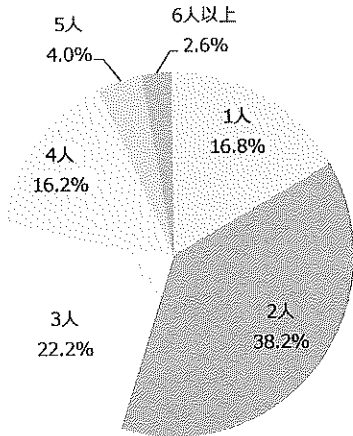
性別(n=500)



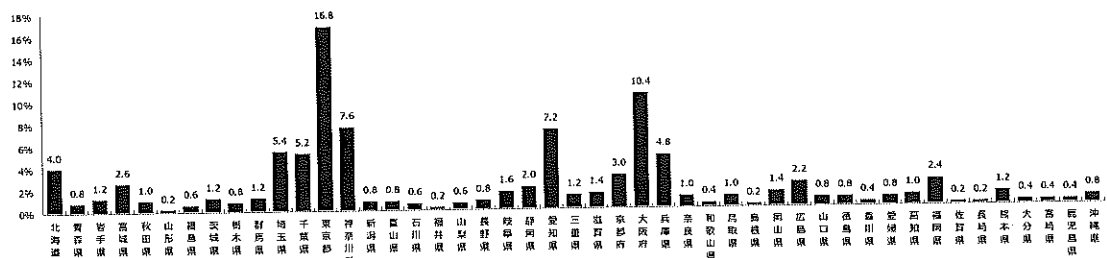
年代(n=500)



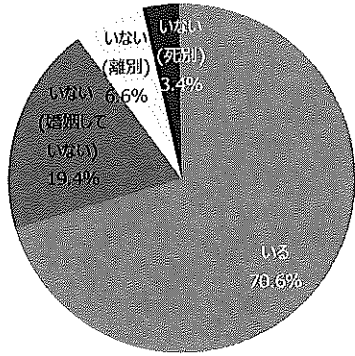
同居人数(n=500)



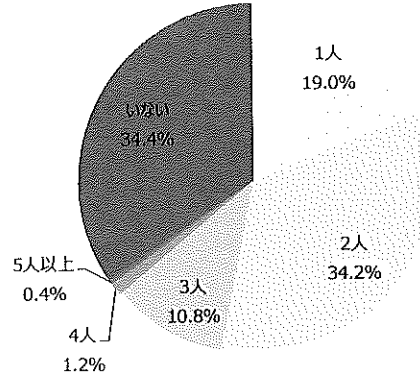
住居地域(n=500)



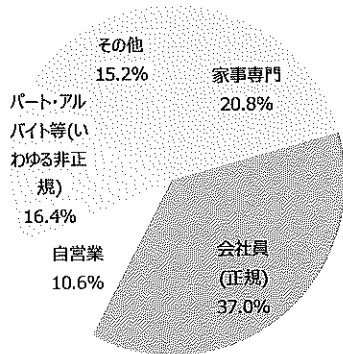
婚姻(n=500)



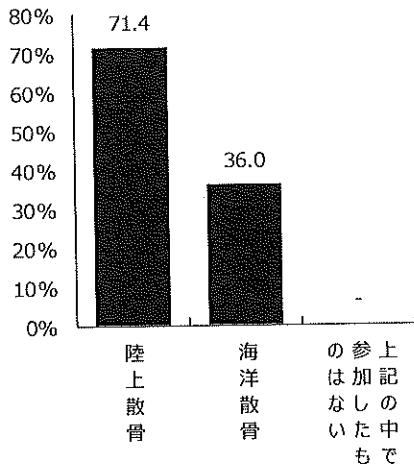
子供有無(n=500)



職業(n=500)

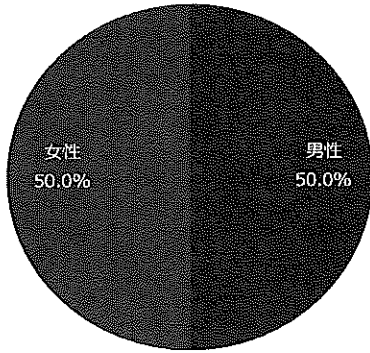


経験のある埋葬方法(n=500)

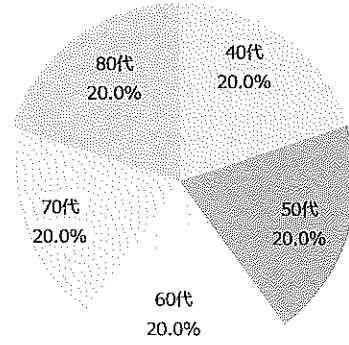


■ 回答者属性(散骨未経験者 n = 500)

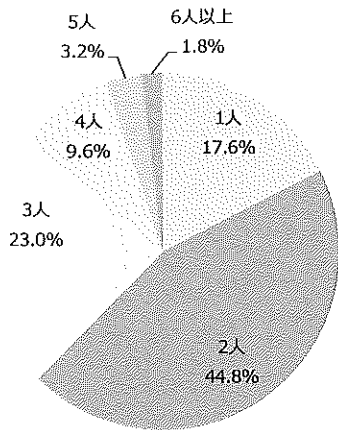
性別(n=500)



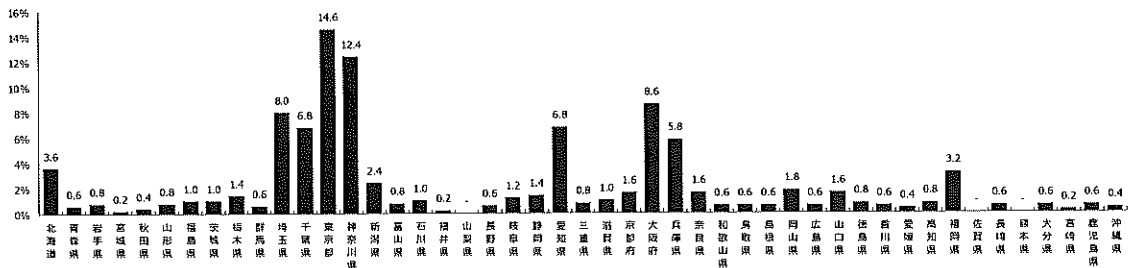
年代(n=500)



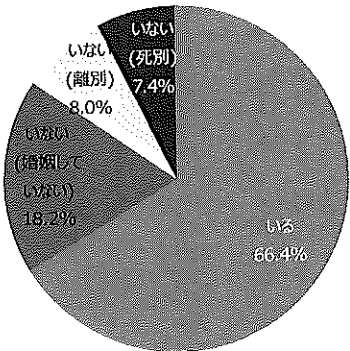
同居人数(n=500)



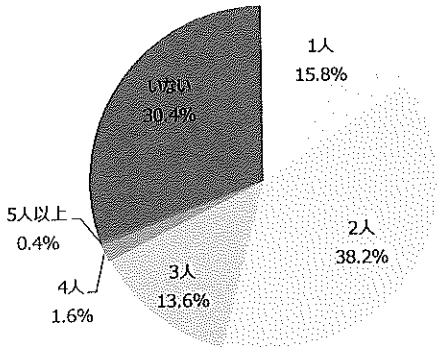
住居地域(n=500)



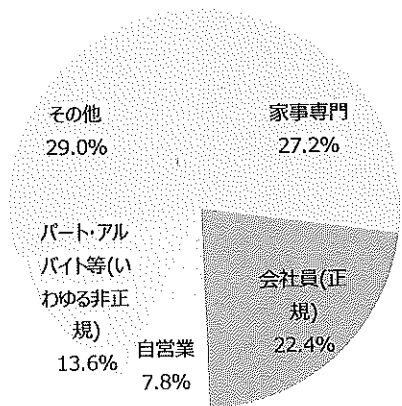
婚姻(n=500)



子供有無(n=500)



職業(n=500)

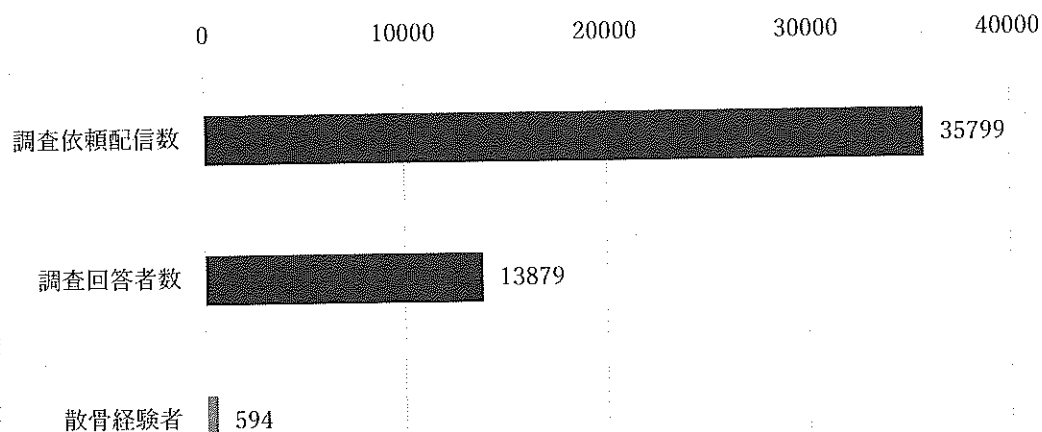


■ 散骨経験者の割合

調査回答者 13,879 人のうち、散骨経験ありと回答した人数は 594 人。自身を含めて、身近な人の散骨経験者の割合は、4.3%と想定。

※以降の調査データの散骨経験者 500 人(n=500)は 594 人よりランダムで抽出。

主な散骨事業団体からの情報によると、年間の死亡者数全体のうち、散骨は、1~2%といわれているが、本調査の回答は、① 散骨経験の有無を、「ご自身を含めて、身近な人が参加した経験があるか」で質問しているため、故人の家族や故人の知り合いなども幅広く含まれている可能性がある。② 過去の経験について質問しているため、年間の死亡者数に対する割合よりは回答率が高くなる。③ 散骨の関係者らからのヒアリングなどは、海洋で行われている事例を中心とした、情報の収集とならざるを得なかった限界がある。などの理由により、散骨事業団体からの情報と経験率に若干乖離がでている可能性がある。こうした①~③として挙げた理由により、散骨の関係者らからのヒアリングなどを通して得られた情報と経験率に若干乖離がでている可能性がある。

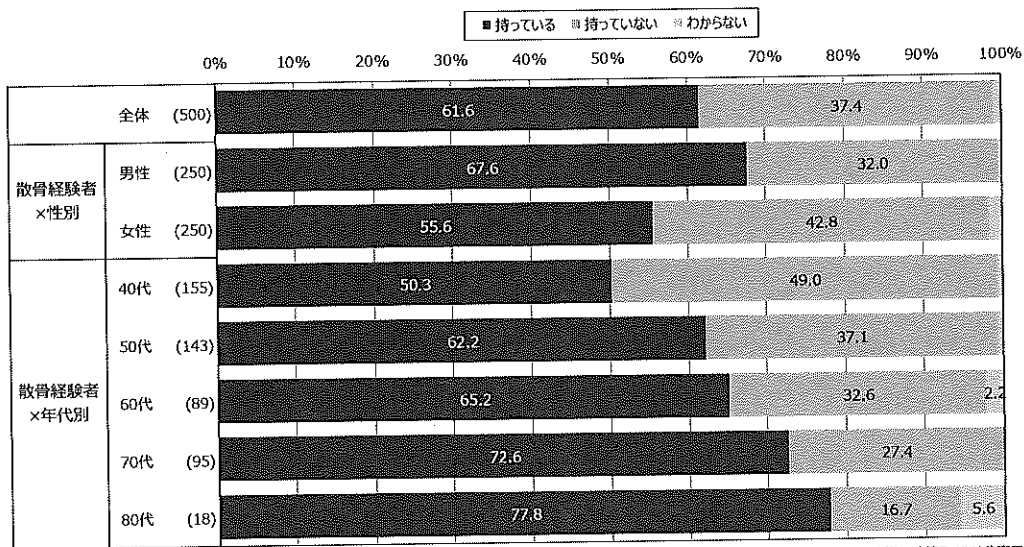


Ⅲ. 調査結果詳細

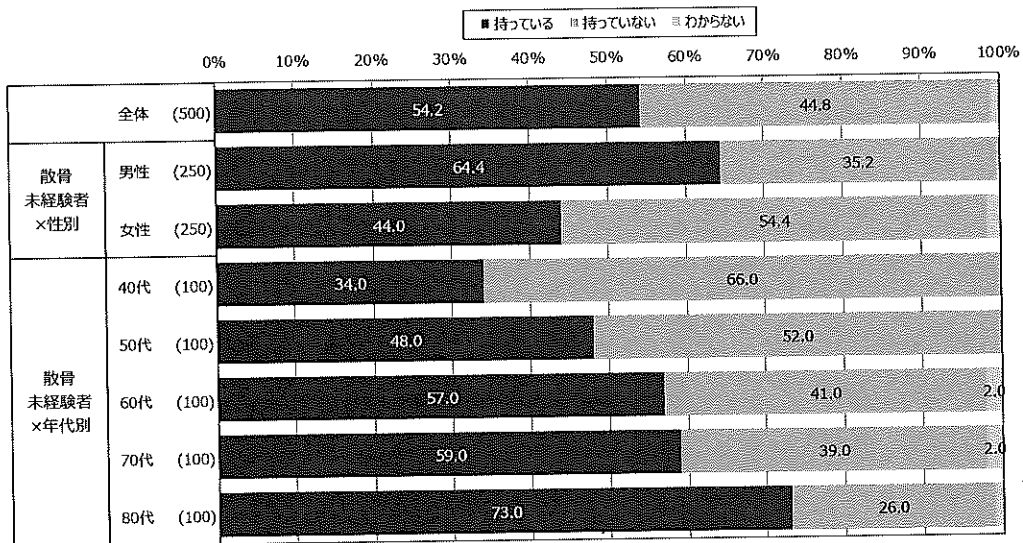
■お墓保有状況

散骨経験者で、「お墓を持っている」と回答した人の割合は 61.6%。女性より男性の保有率が高い。散骨未経験者で、「お墓を持っている」と回答した人の割合は 54.2%で、散骨経験者よりは少ないが、散骨の経験に関わらずそれぞれお墓を保有している人が一定数いるという結果になっている。散骨経験者と同様に女性より男性の保有率が高い。

Q1 あなたは現在、「お墓」をお持ちですか。(お答えは1つ)



2%未満の数値ラベルは非表示

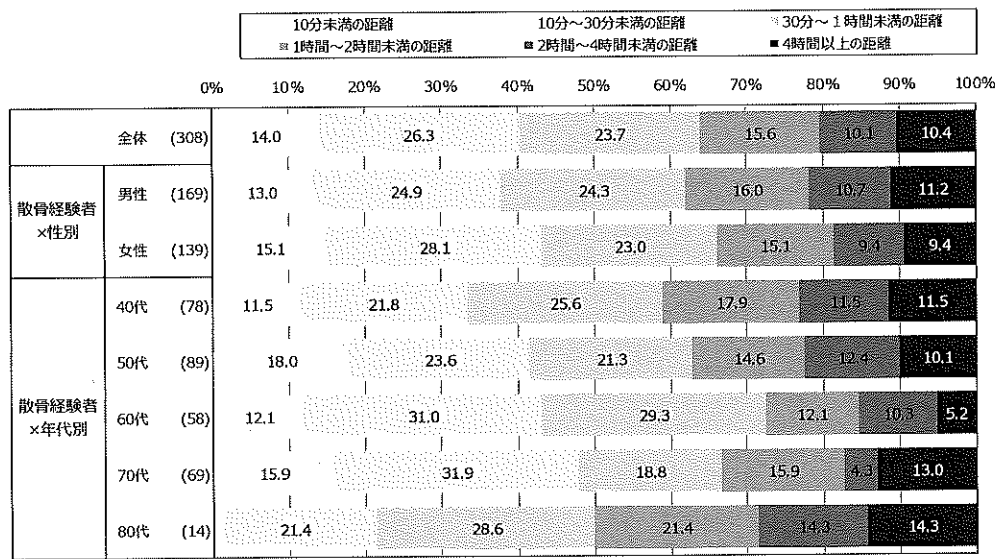


2%未満の数値ラベルは非表示

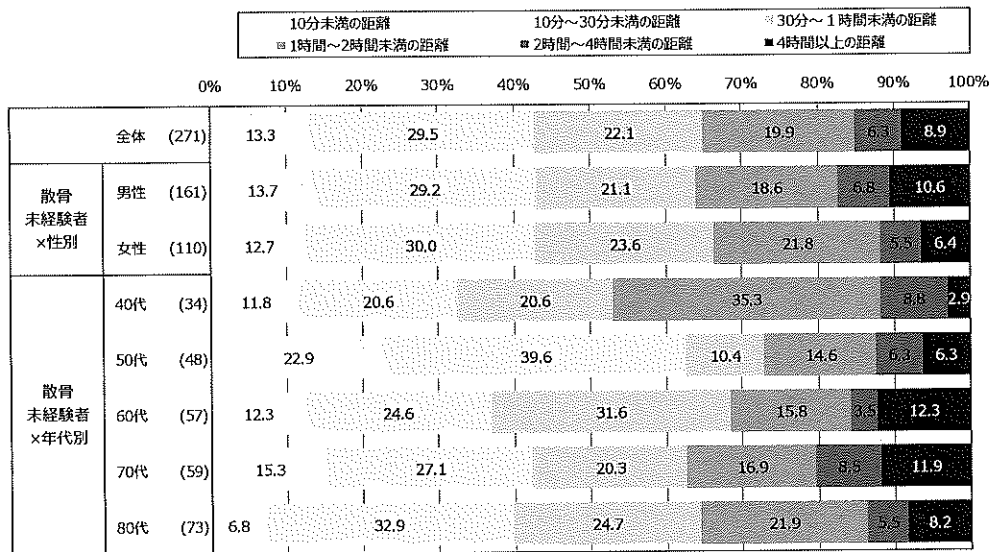
■お墓への交通時間

散骨経験者のうち、お墓を持っている人の居住地からのアクセス時間は、64.0%が1時間未満と回答。散骨未経験者のうち、お墓を持っている人の居住地からのアクセス時間は、散骨経験者とあまり大きな違いは見られないためあまり関連性がないと思われる。

Q2 現在、「お墓」を持っていると回答した方にお伺いします。その「お墓」への、居住地からのアクセス時間(片道)をお答えください。(お答えは1つ)



2%未満の数値ラベルは非表示

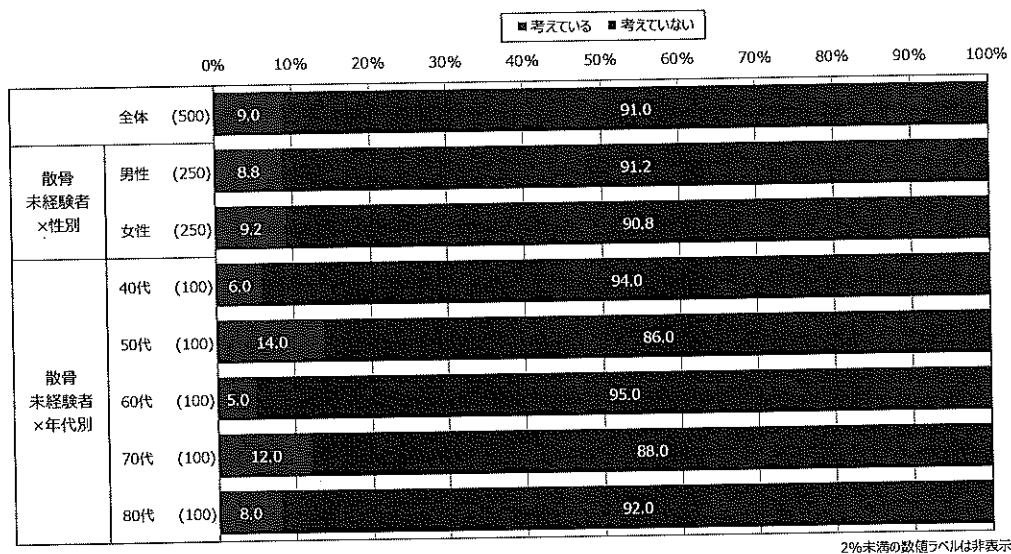
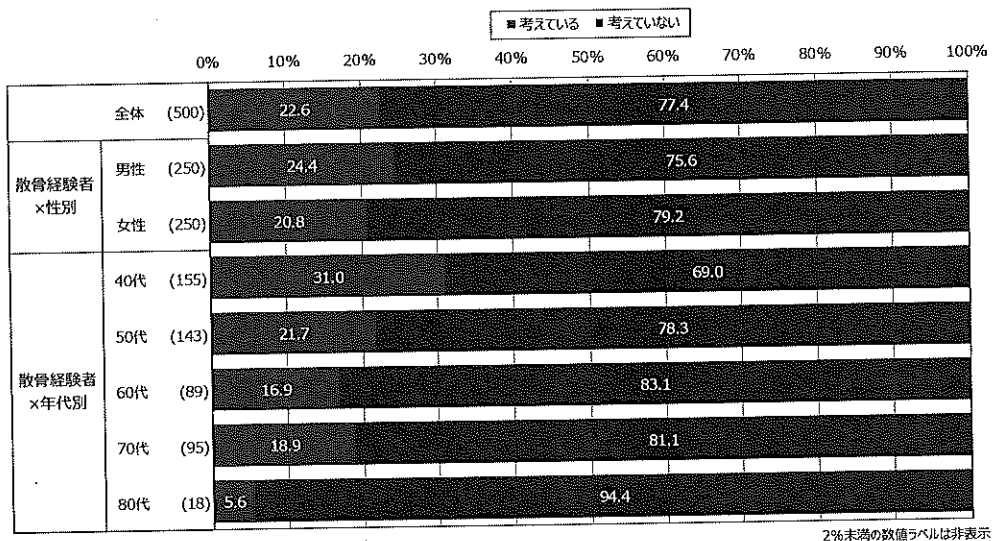


2%未満の数値ラベルは非表示

■お墓の新設について

散骨経験者のうち、お墓の新設を考えている人の割合は、22.6%。年齢が高くなるほどその割合が少なくなる傾向がある。散骨未経験者のうち、お墓の新設を考えている人の割合が、9.0%と散骨経験者と比較して低いが、散骨未経験者は、経験者と比較して身近に亡くなった人がいない可能性があるとも考えられる。

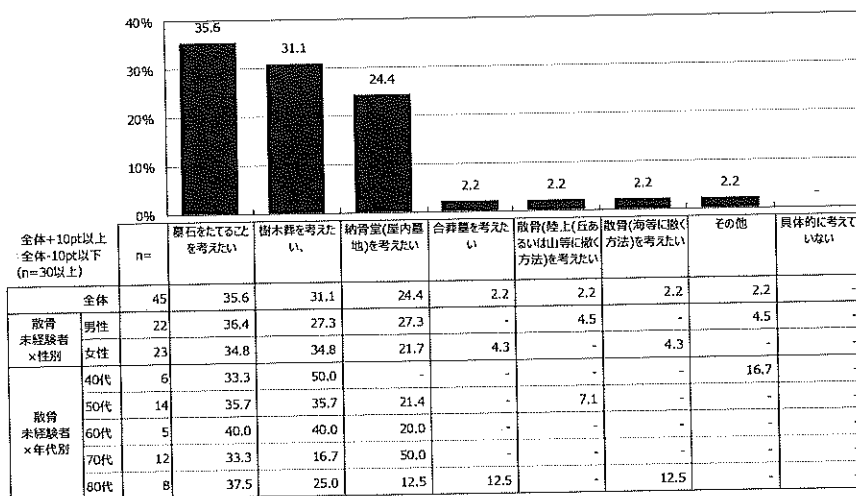
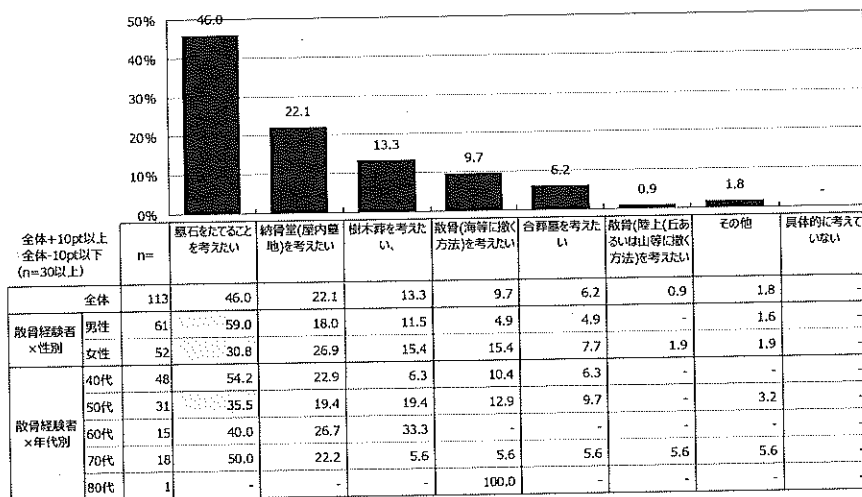
Q3 あなたは現在、「お墓」を新たに設けることを考えていますか。(お答えは1つ)



■お墓の新設について(第一希望)

散骨経験者でお墓の新設を考えている人のうち、第一希望として「墓石を立てたい」と回答した人の割合は 46.0%と高く、「納骨堂を建てたい」と回答した人がこれに次ぎ、22.1%、次いで、「樹木葬」が 13.3%、「散骨」が 9.7%となっているのに対し、散骨未経験者では、「墓石を立てたい」と回答した人が 35.6%とやや少ないが、「樹木葬」が 31.1%、「納骨堂」が 24.4%と散骨未経験者に比べ、やや多くなっている。「散骨」は陸上と海洋を合わせても 4.4%とかなり少ない。

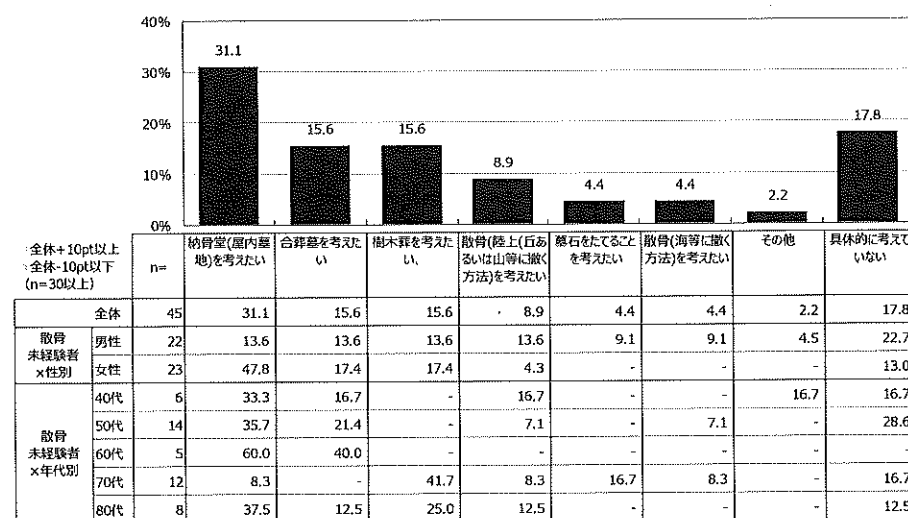
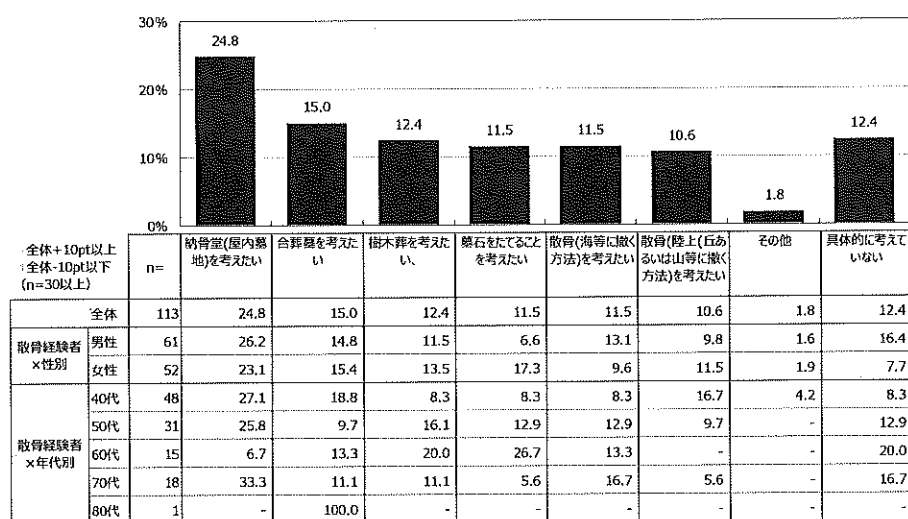
Q4S1 [第 1 希望]現在、「お墓」を新たに設けることを考えていると回答した方にお伺いします。具体的には、どのようなあり方を考えていますか。第 1 希望から(可能であれば)第 3 希望までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



■お墓の新設について(第二希望)

散骨経験者で、お墓の新設を考えている人のうち、第二希望として「納骨堂を考えた
い」と回答する人の割合が高く 24.8%。散骨未経験者で、お墓の新設を考えている人
のうち、第二希望として「納骨堂を考えた」と回答する人の割合が、散骨経験者と同
様に高く 31.1%。

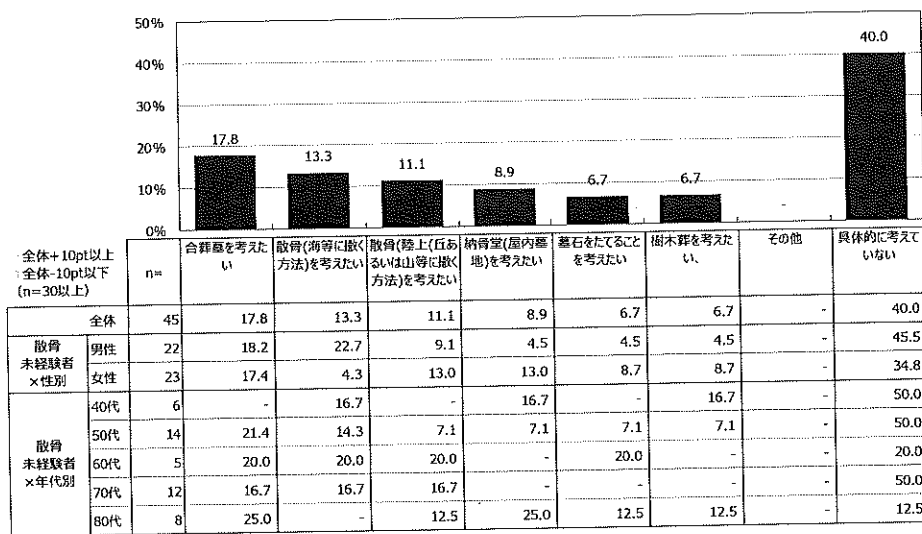
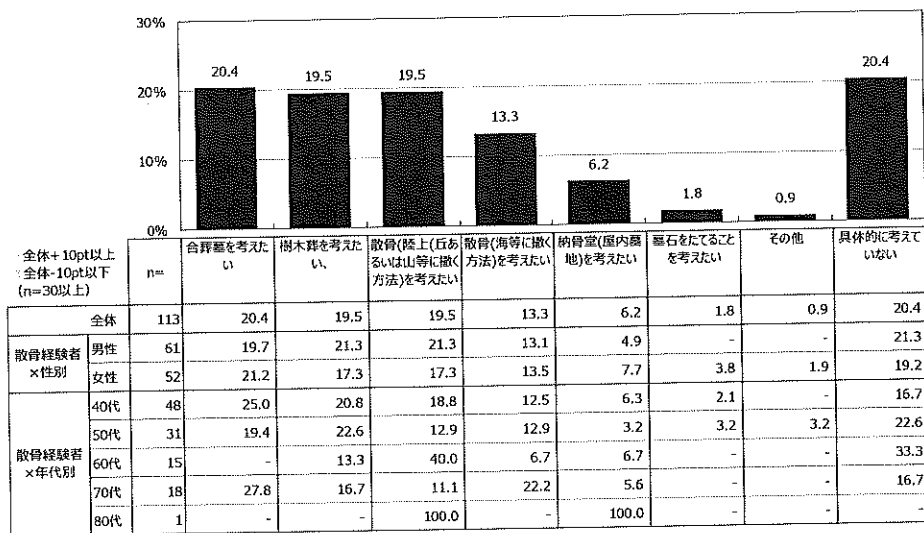
Q4S2 [第 2 希望]現在、「お墓」を新たに設けることを考えていると回答した方にお伺
いします。具体的には、どのようなあり方を考えていますか。第 1 希望から(可能であ
れば)第 3 希望までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



■お墓の新設について(第三希望)

第三希望で見ると、散骨経験者、散骨未経験者は、いずれも「具体的には考えていない」が最も多く、合葬墓、納骨堂、樹木葬等が続くが、陸上散骨と海洋散骨を合わせると、いずれも、合葬墓、樹木葬を超えて、かなり高い数値となっている。

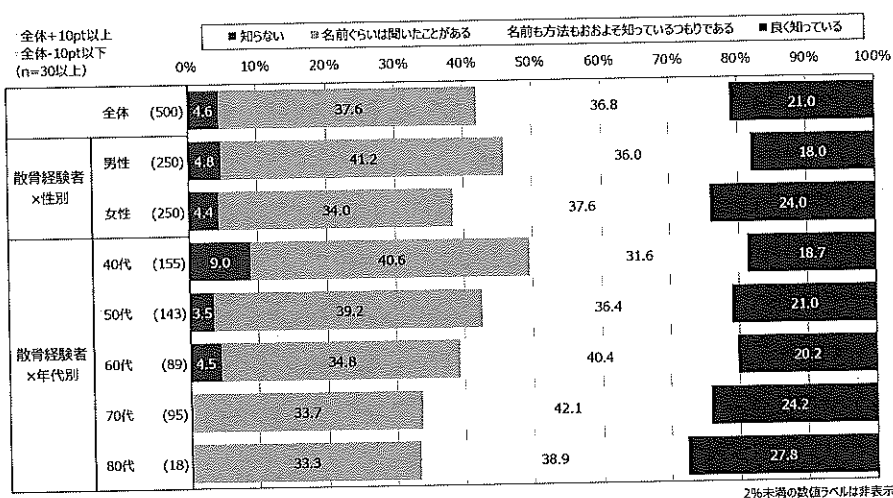
Q4S3 [第3希望]現在、「お墓」を新たに設けることを考えていると回答した方にお伺いします。具体的には、どのようなあり方を考えていますか。第1希望から(可能であれば)第3希望までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



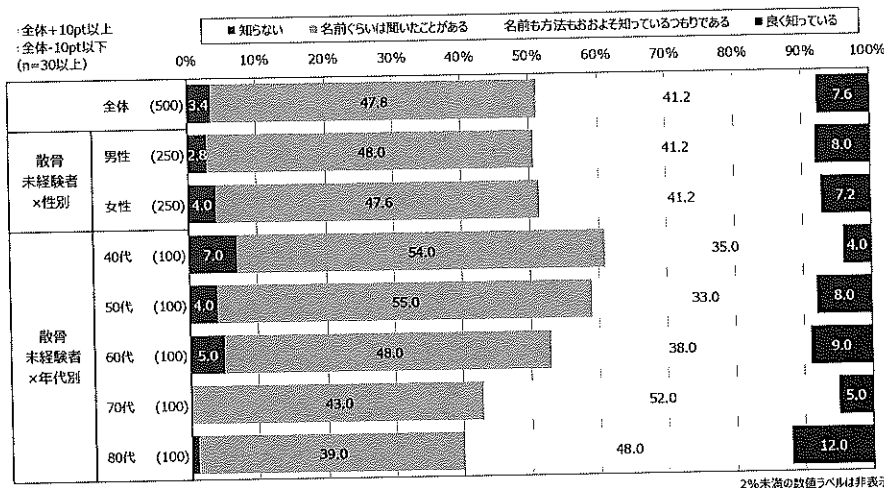
■散骨の認知状況

散骨経験者のうち、95.4%が「散骨を知っている」と回答しているが、そのうち、「よく知っている」と回答しているのは、21.0%である。これに対し、散骨未経験者は、同じく96.4%が「知っている」と回答しているが、「よく知っている」と回答したのは7.6%にとどまっている。散骨についての認識は相当程度広まっているが、必ずしも良く知っていないことが分かる。

Q5 あなたは、「散骨」という葬法をご存知ですか。(お答えは1つ)



理解 (計)	認知 (計)
42.2	79.0
46.0	82.0
38.4	76.0
49.7	81.3
42.7	79.0
39.3	79.8
33.7	75.8
33.3	72.2

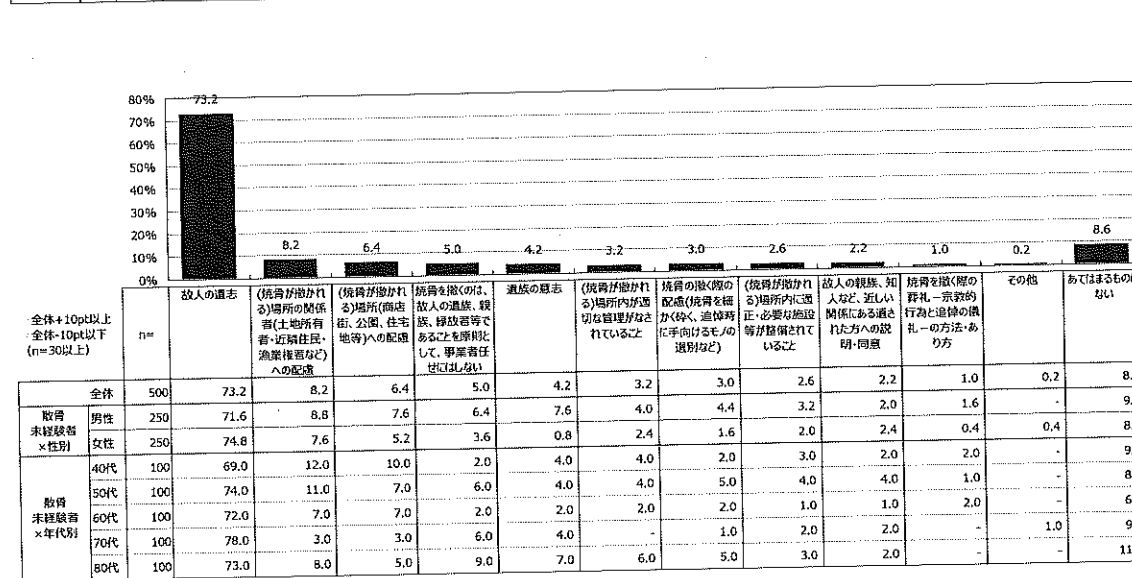
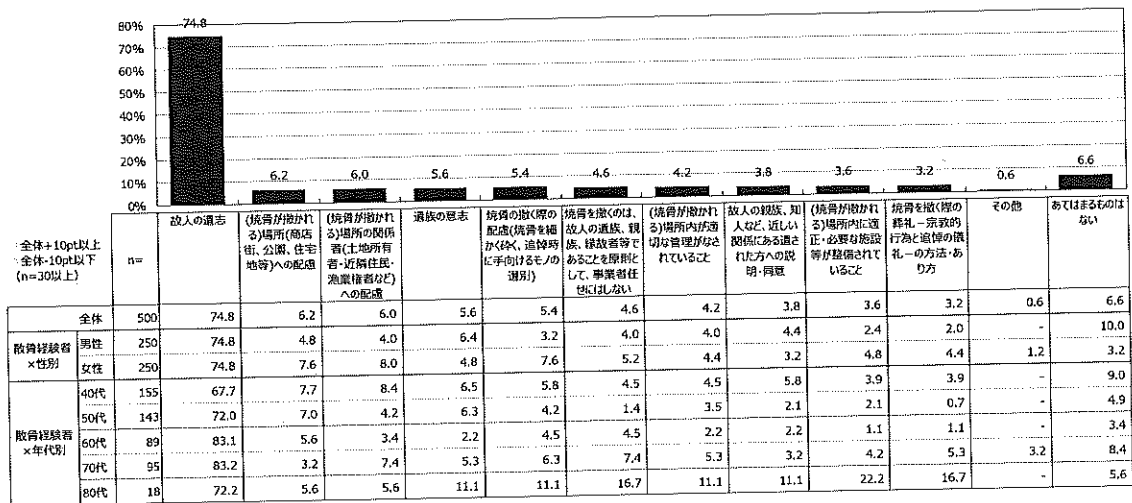


理解 (計)	認知 (計)
51.2	92.4
50.8	92.0
51.6	92.8
61.0	96.0
59.0	92.0
53.0	91.0
43.0	95.0
40.0	88.0

■散骨の節度について(第一希望)

散骨経験者のうち、節度について、第一希望として「故人の遺志」と回答する人が、74.8%と著しく高い。散骨未経験者のうち、節度について、第一希望として「故人の遺志」と回答する人が、散骨経験者と同様、73.2%と著しく高い。

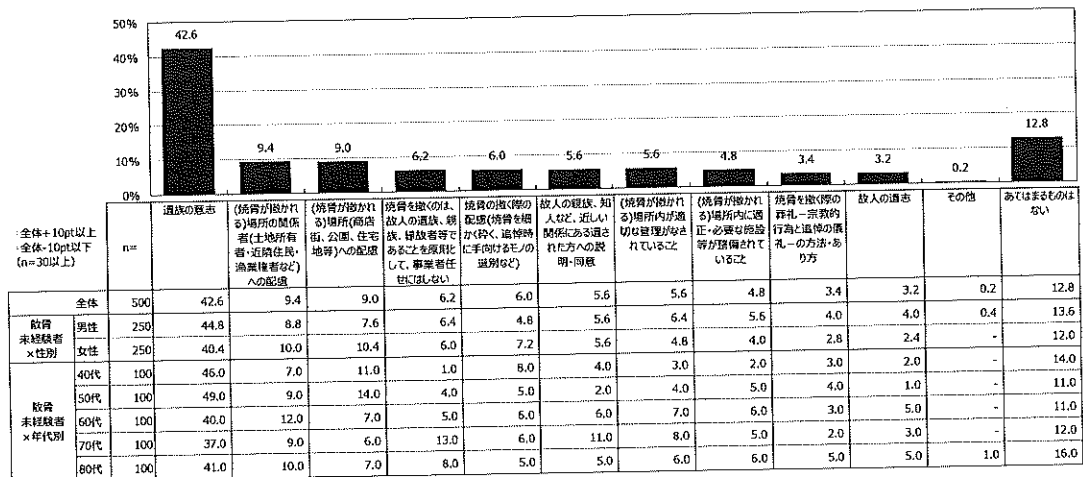
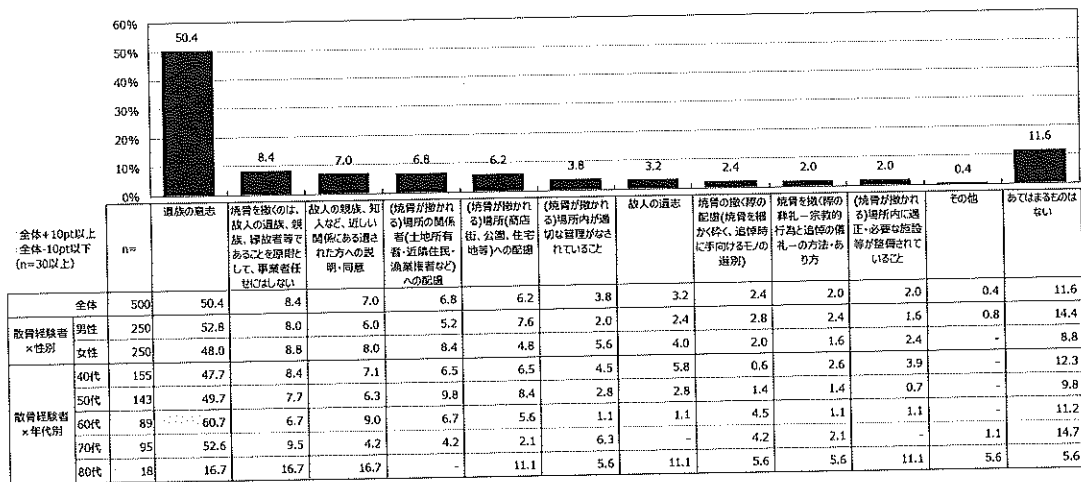
Q6S1 [第1希望]現在、散骨については、「節度をもって行われる限りにおいては認められる」といった説明ないし解説がなされています。ここでいう「節度」というのは具体的にどういったことだと考えますか。優先されると思う順から、第1希望から(可能であれば)第3希望までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



■散骨の節度について(第二希望)

散骨経験者のうち、節度について、第二希望は、「遺族の遺志」と回答する人が、50.4%と著しく高い。散骨未経験者のうち、節度について、第二希望は、「遺族の遺志」と回答する人が、散骨経験者と同様 42.6%と著しく高い。

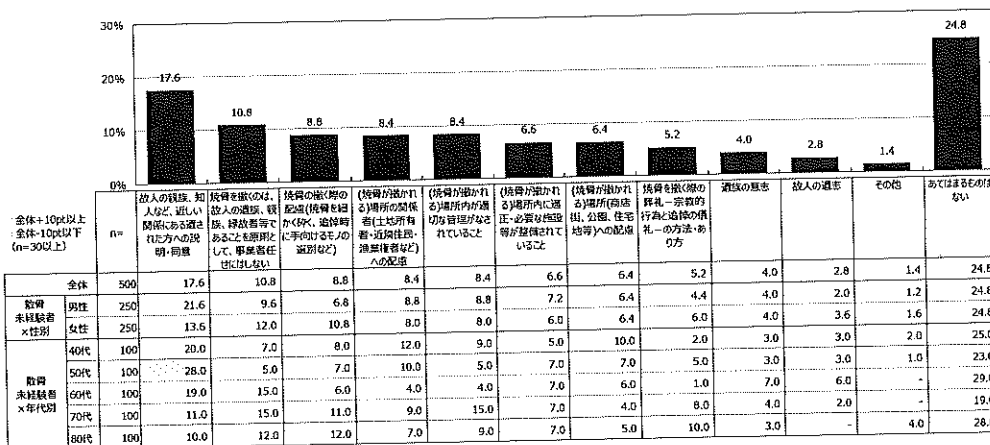
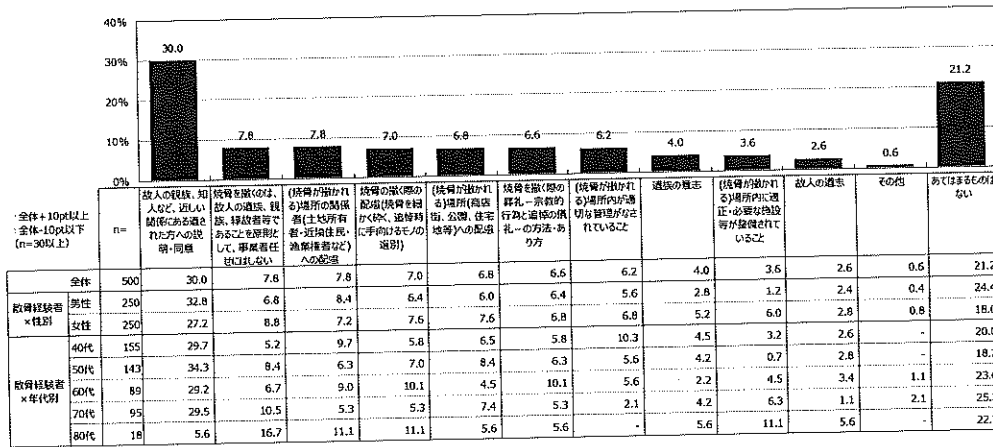
Q6S2 [第2希望] 現在、散骨については、「節度をもって行われる限りにおいては認められる」といった説明ないし解説がなされています。ここでいう「節度」というのは具体的にどういったことだと考えますか。優先されると思う順から、第1希望から(可能であれば)第3希望までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



■散骨の節度について(第三希望)

節度についての第三希望では、散骨経験者では、「故人の遺された方への説明」と回答する人が 30.0%、次いで、「あてはまるものがない」が 21.2%、「原則として事業者任せにしない」が 7.8%、「散骨される場所の関係者への配慮」が 7.8%、「細かく砕くなどまじりの配慮」が 7.0%となっている。散骨未経験者では、「あてはまるものがない」人の割合が 24.8%となっており、その他の回答は、散骨経験者と大きな変化はない。

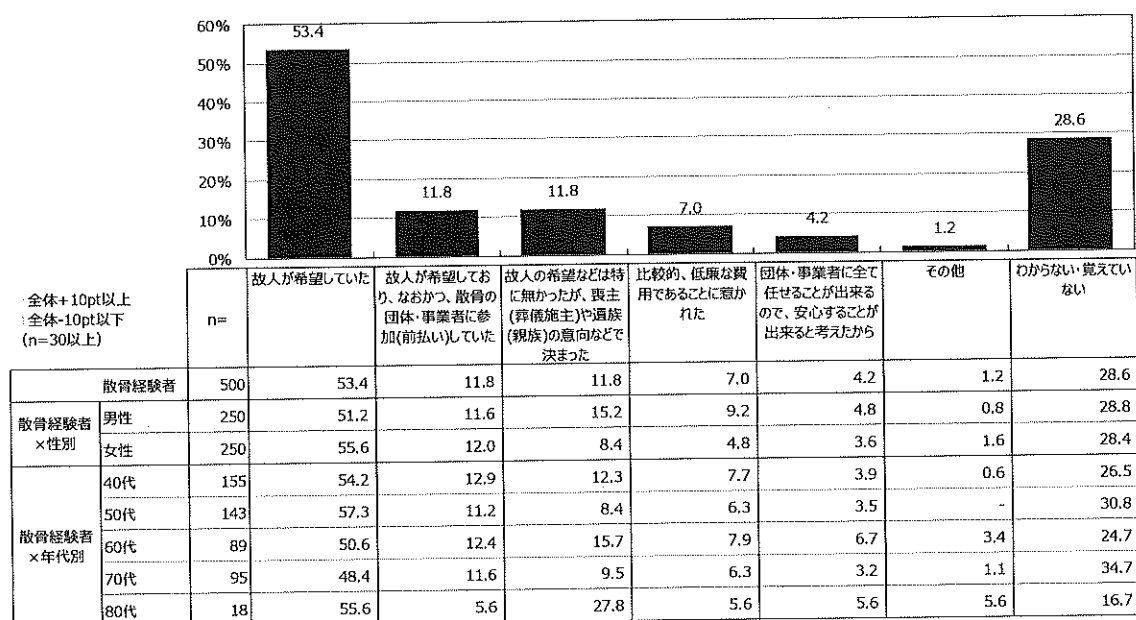
Q6S3 [第3希望] 現在、散骨については、「節度をもって行われる限りにおいては認められる」といった説明ないし解説がなされています。ここでいう「節度」というのは具体的にどういったことだと考えますか。優先されると思う順から、第1希望から(可能であれば)第3希望までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



■散骨をした理由

散骨をした理由として、「故人が希望していた」と回答した人の割合が、53.4%で最も高い。性別・世代のすべてにおいて「故人が希望していた」という人の割合が最も高く、散骨は故人の遺志が尊重されているといえる。

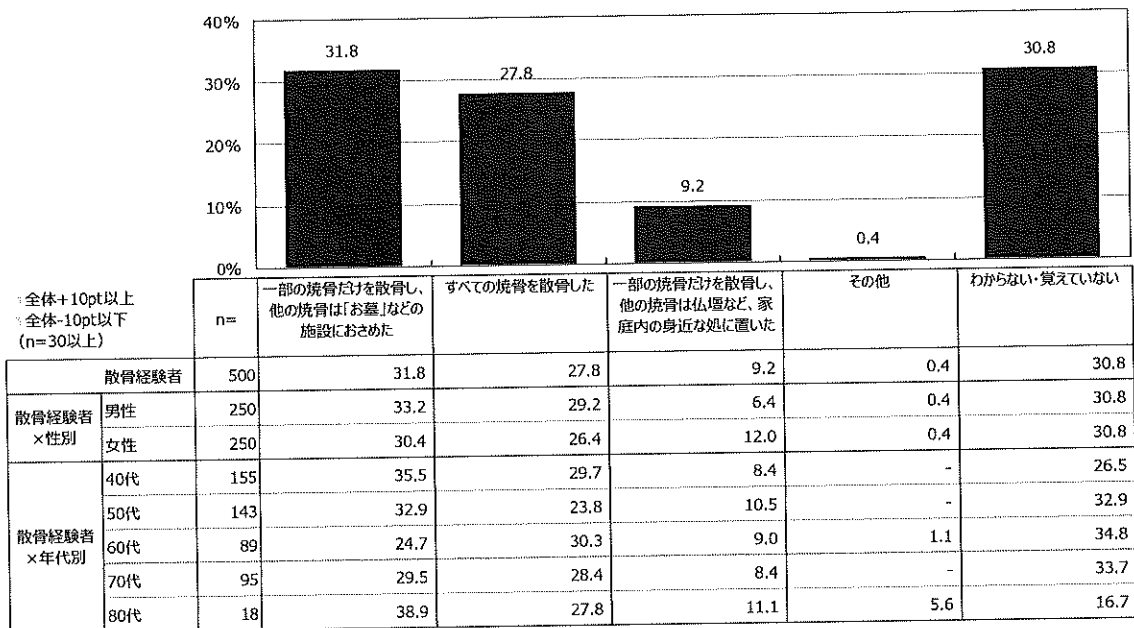
Q7 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に散骨を行なった葬儀について、なぜ散骨することになりましたか。(お答えはいくつでも)



■焼骨の散骨について

散骨だけを選択したのか、散骨とその他の葬法を合わせて行ったかについての質問をしたところ、散骨経験者のうち、「一部の焼骨だけを散骨し、他の焼骨は「お墓」等の施設に納めた」と回答した人の割合が 31.8%、「すべての焼骨を散骨した」と回答した人は 27.8%、「一部の焼骨は仏壇など、家庭内の身近のところに置いた」と回答した人が 9.2%となっているが、「わからない、覚えていない」と回答した人も 30.8%となっている。

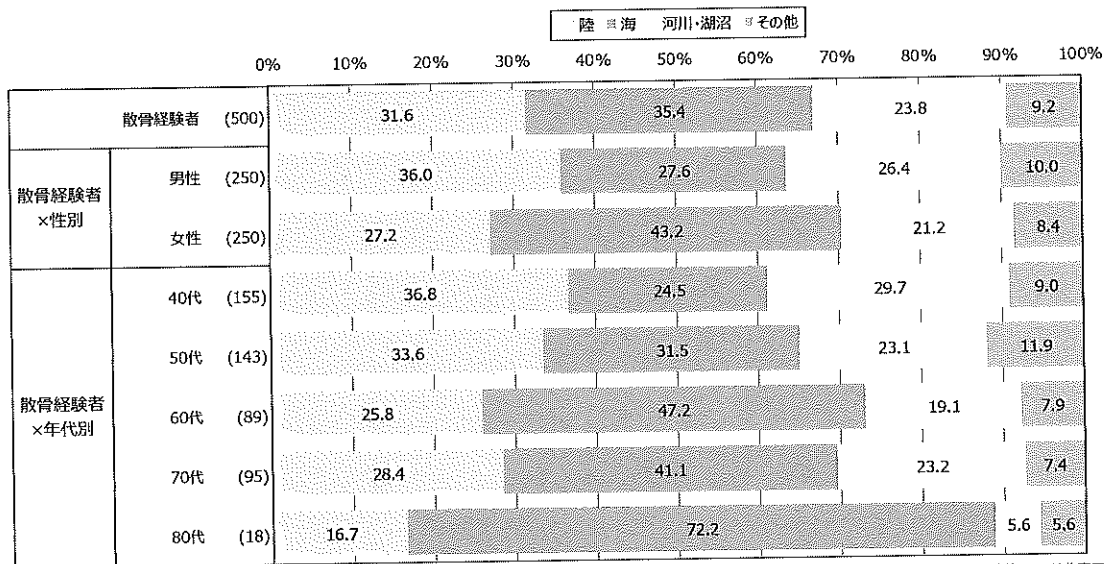
Q8 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に散骨を行なった葬儀について、その際、ご遺骨(焼骨)はどのようにしましたか。(お答えは1つ)



■散骨場所

散骨の場所を問うたところ、「陸」が31.6%、「海」が35.4%、「河川湖沼」が23.8%となっており、海洋散骨が多いとする一般的な理解とは異なり、陸と河川湖沼がかなり多い結果となっている。

Q9 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に散骨を行なった葬儀について、散骨した場所について、最もあてはまるものをお答えください。(お答えは1つ)

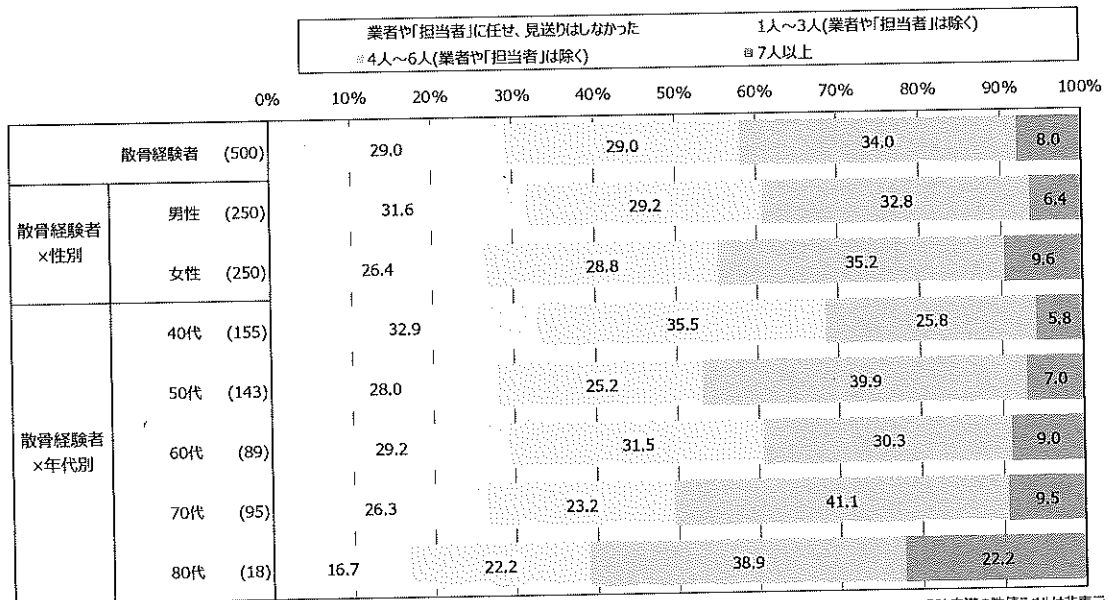


2%未満の数値ラベルは非表示

■散骨の立ち会い・見送りをした人数

散骨の立ち会い、見送りの人数は、「4人～6人」と回答した人の割合が、34.0%と最も高く、次いで「1人～3人」と「業者や「担当者」に任せ、見送りをしなかった」人が、29.0%と同等数で存在している。

Q10 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に行った散骨について、何人くらいの人で立ち会い・見送りをしましたか。(お答えは1つ)

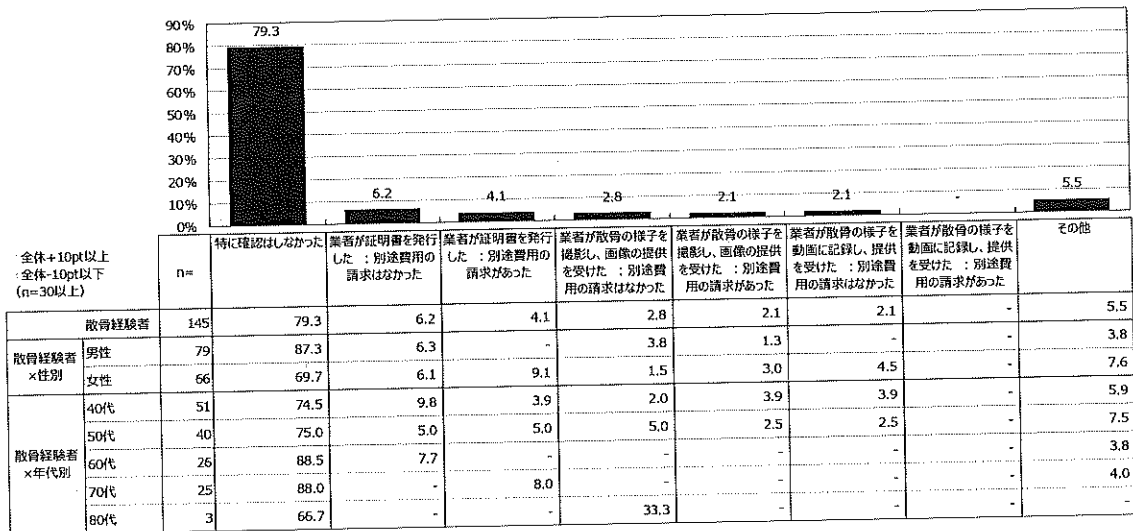


2%未満の数値ラベルは非表示

■散骨の確認状況

散骨の実施を業者や担当者任せにしている人の対応について尋ねている。散骨が行われたのちの対応については、「特に確認しなかった」と回答した人が79.3%となっており、問題が多い。

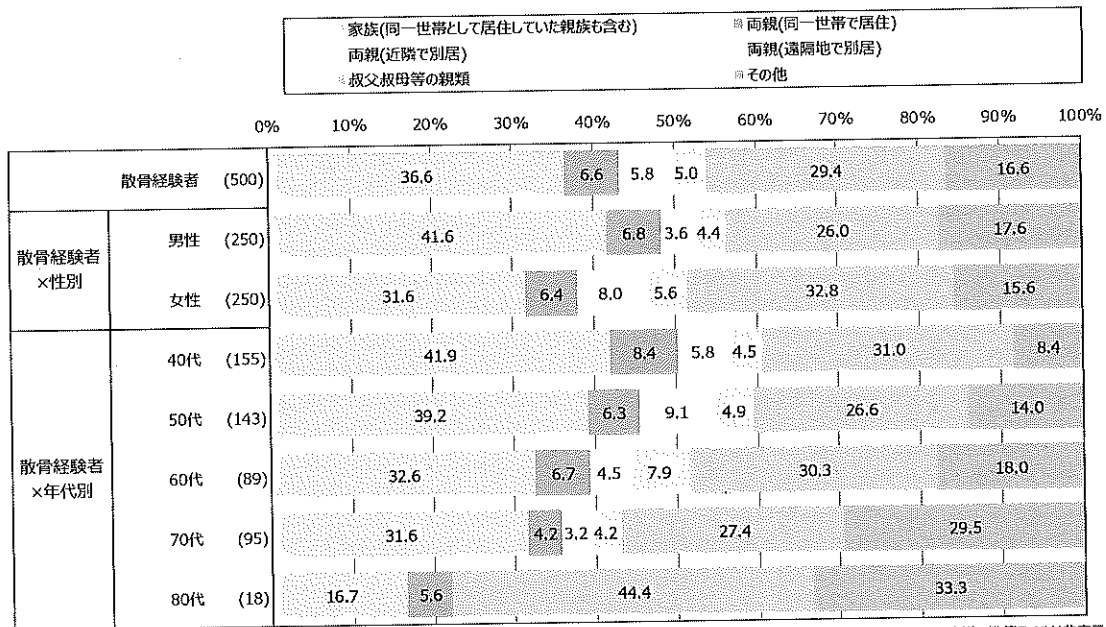
Q11 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に行った散骨について、業者や「担当者」に任せて、散骨を見送りはしなかったと回答した方にお伺いします。どのように散骨がなされたのか確認しましたか。(お答えはいくつでも)



■故人の散骨を行なった方との関係

散骨を行った方との関係では、両親もしくは家族と答えた方の割合が、57.0%と大半を占める。年代が高くなるほど、「叔父叔母等の親類」「その他」と回答する人の割合が高くなる。

Q12 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に行った散骨について、亡くなられた方の散骨を行なった方と、あなたは、どのようなご関係でしたか。
(お答えは1つ)

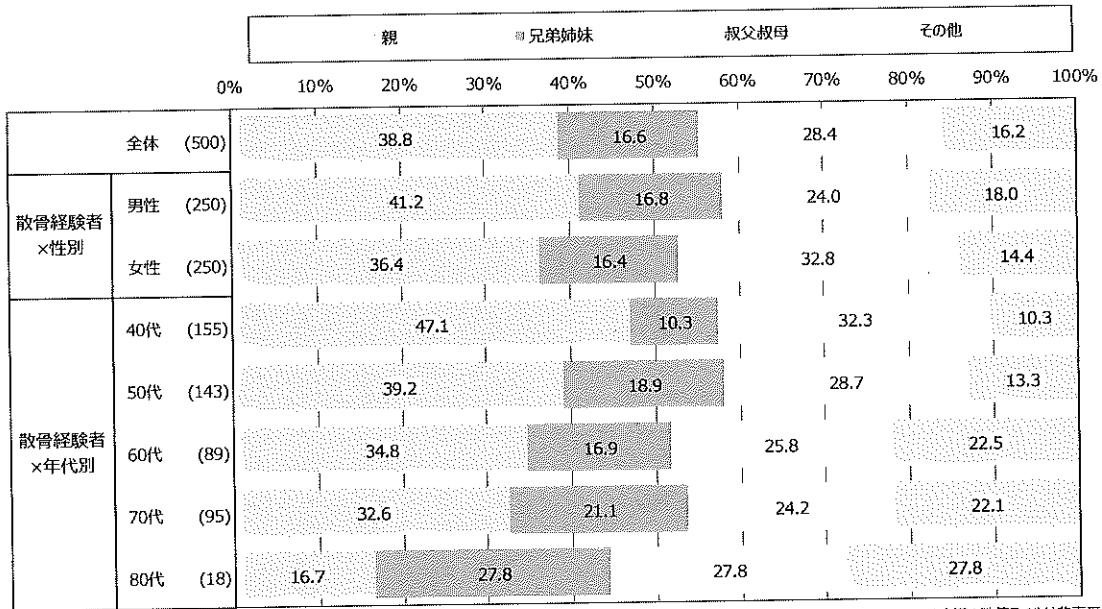


2%未満の数値ラベルは非表示

■故人と散骨を行なった方の関係

散骨された故人との関係について、「親」「兄弟姉妹」と回答した人の割合が、55.4%で家族が大半を占める。年代が高くなるほど、「叔父叔母等の親類」「その他」と回答する人の割合が高くなる。

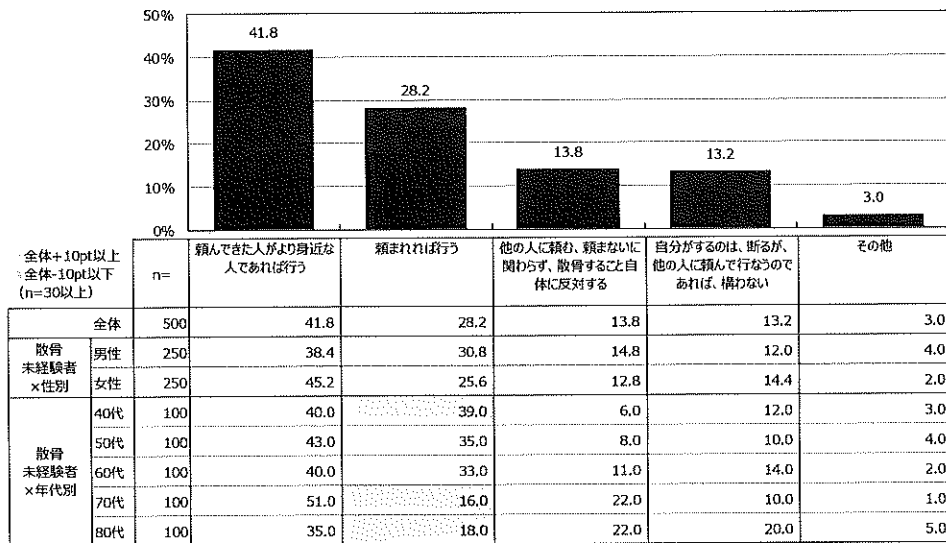
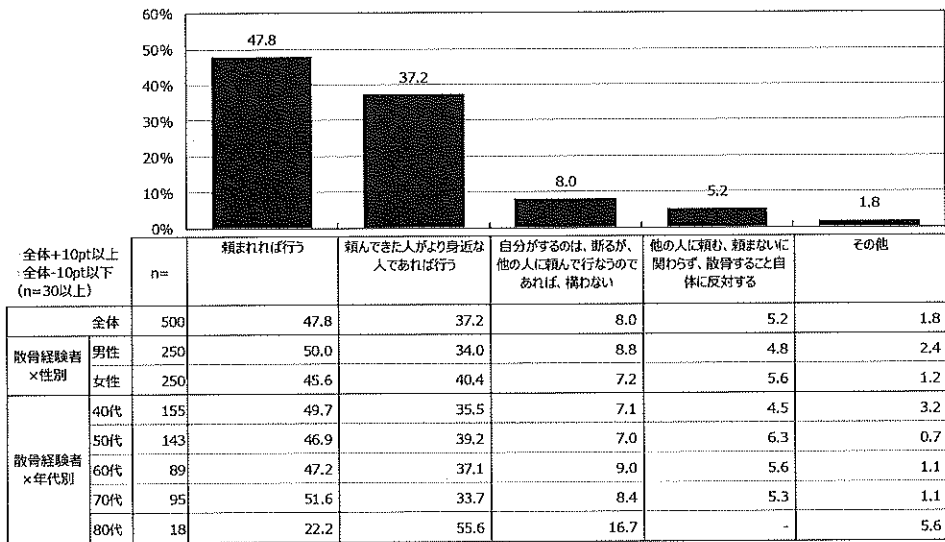
Q13 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に行った散骨について、散骨された故人と、直接、散骨を行なった方は、どのようなご関係でしたか。(お答えは1つ)



■散骨の依頼を受けた場合

散骨経験者のうち、身近な方から散骨してほしいと言われたときに、85.0%の人が、自分が行うと回答している。散骨未経験者のうち、身近な人から散骨してほしいと言われたとき、自分が行うと回答した人は、70.0%で割合は高いが、散骨経験者と比較すると低い。

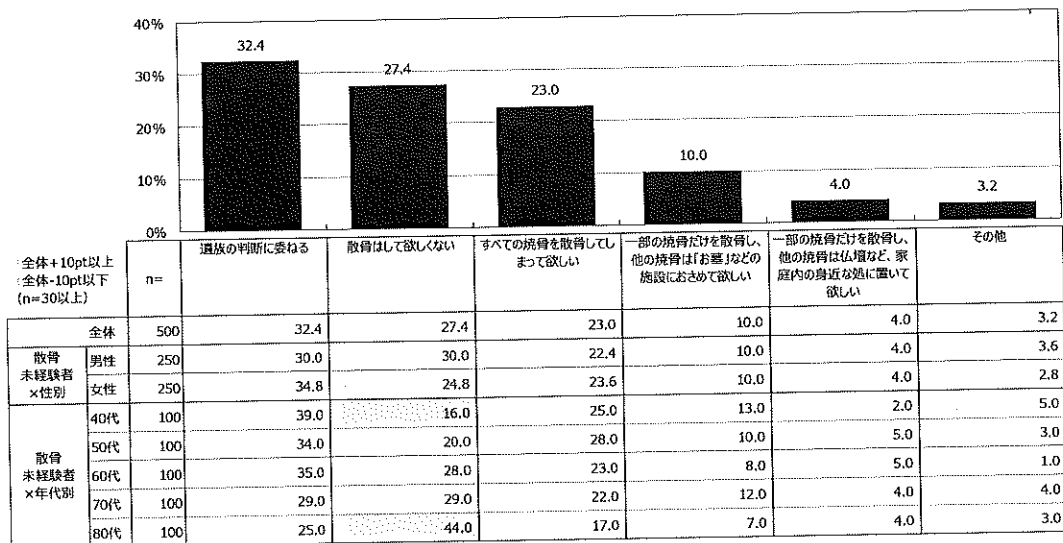
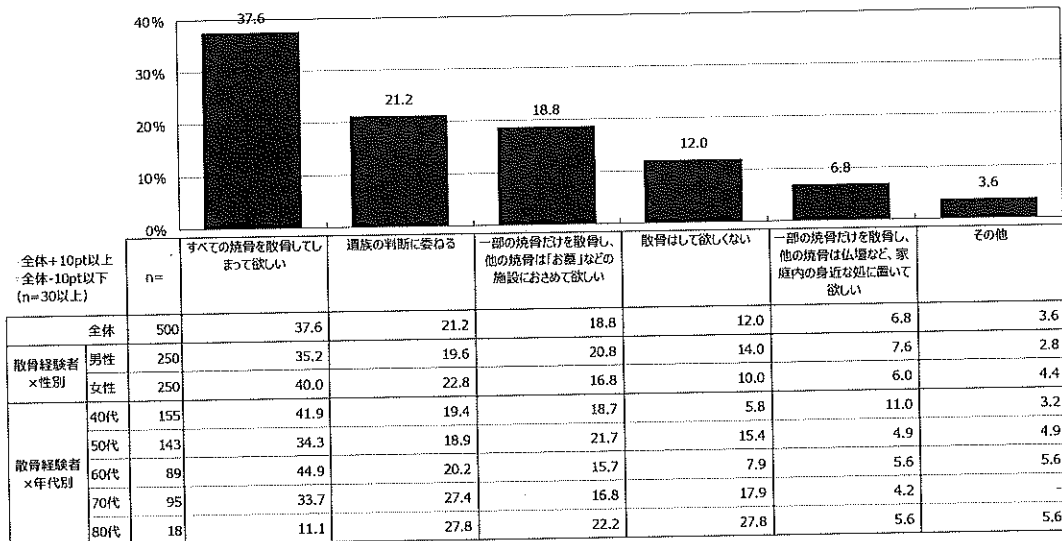
Q15 あなたの身近な方から散骨して欲しいと言われたらどうしますか。(お答えは1つ)



■自身の散骨について

ご自身の散骨について問うている。散骨経験者では、「すべて散骨してしまっていて欲しい」と考える人が37.6%と高く、「遺族の判断にゆだねる」と考える人は12.0%となっており、「一部の焼骨だけを散骨し、他はお墓などの施設に収めて欲しい」と考える人が18.8%、「散骨してほしくない」と考える人は12.0%となっている。散骨未経験者では、「遺族の判断にゆだねる」と考える人が32.4%と最も高く、「散骨はして欲しくない」と考える人も27.4%となっており、「すべて散骨して欲しい」と考える人は23.0%となっており、「一部の焼骨を散骨し、他はお墓などの施設に収めて欲しい」と考える人は、10.0%と散骨経験者とはかなり異なる回答となっている。

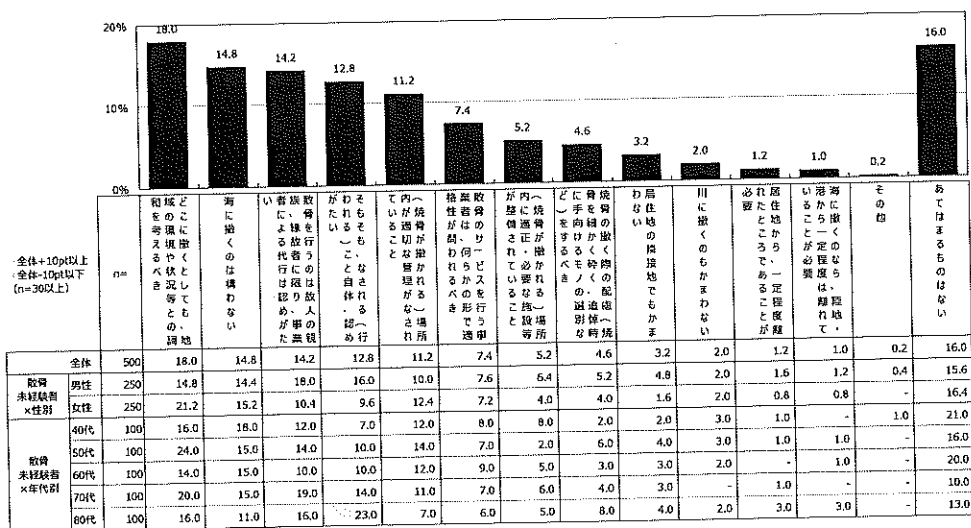
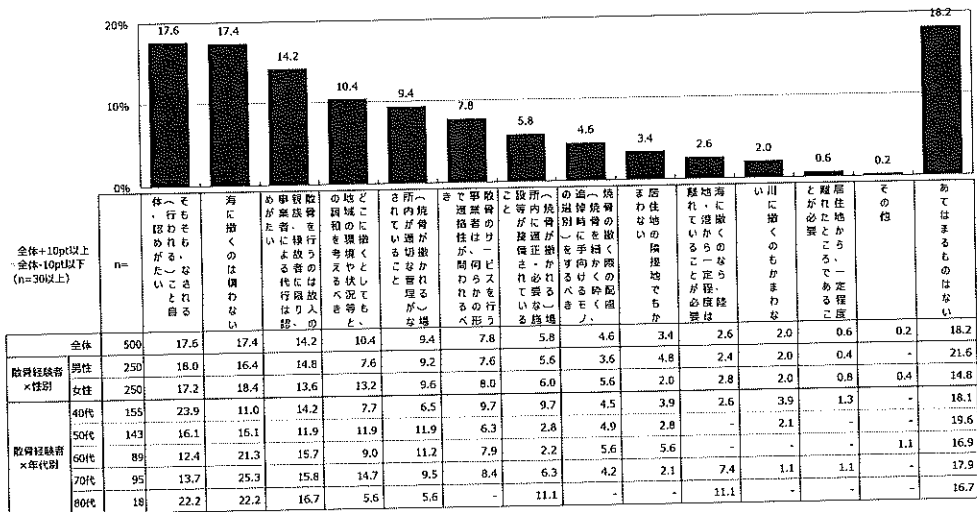
Q16 あなた自身がお亡くなりになられた場合に、ご自身のご遺骨(焼骨)の散骨についてはどのようにお考えですか。(お答えは1つ)



■地元での散骨場建設について(第一希望)

地元での散骨場の計画があった場合についての散骨経験者の第一希望としては、「なされること自体認めがたい」が 17.6%と最も高いが、「海に撒くのは構わない」が 17.4%も次いで高い。「事業者による代行は認めがたい」が 14.2%、「地域環境との調和を考えるべき」が 10.4%と適切な実施を望む意見もある。又、散骨場の「管理が適切であること」、「事業者の適格性」、「適切な施設な整備」等を求める意見もある。「散骨非経験者は、「どこで撒くにしても地域の環境や状況等との調和を考えるべきだ」が 18.0%と散骨経験者よりも少し高く、その他の考え方も同様の傾向を示している。

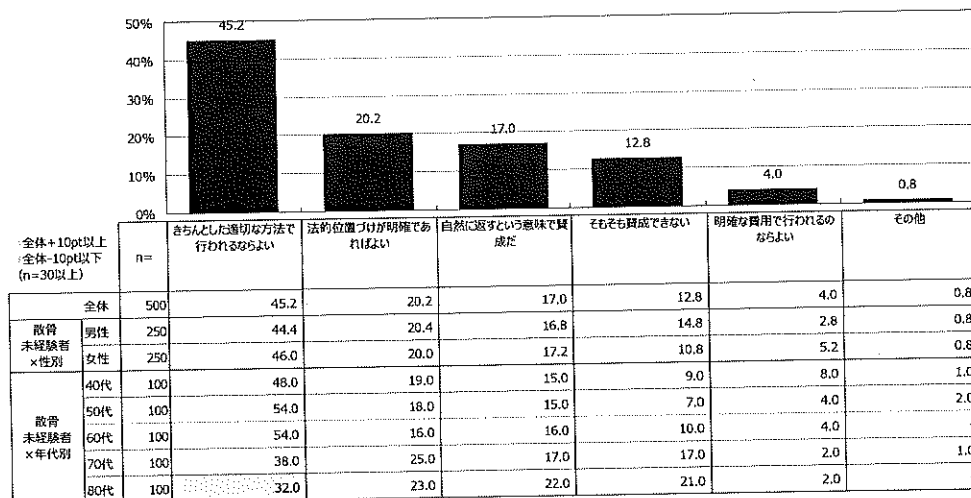
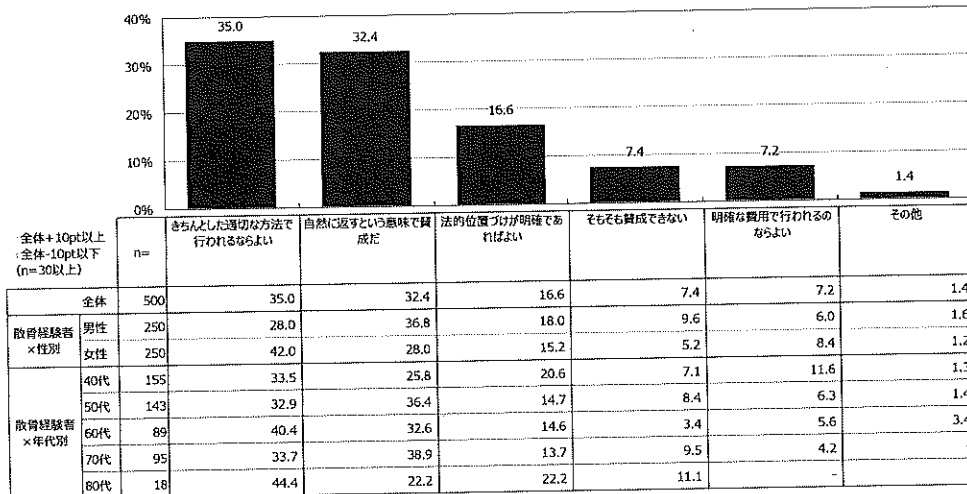
Q17S1 [第1希望]もし、地元で散骨場が設けられる計画が明らかになった場合、これに対するあなたのお気持ちについて、優先される順に第一位から(可能であれば)第三位までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



■散骨について

散骨経験者では、「きちんとした適切な方法で行われるならよい」と考える人が 35.0%と最も多く、「自然に返すという意味で賛成だ」が 32.4%と続き、「法的な位置づけが明確であればよい」が 16.6%となっており、「そもそも賛成できない」は、7.4%となっている。散骨未経験者では、「きちんとした適切な方法で行われればよい」が 45.2%とやや高く、「法的な位置づけが明確であればよい」が 20.2%とこれに続いており、「自然に返すという意味で賛成だ」が 17.0%、「そもそも賛成できない」が 12.8%と散骨経験者とやや判断に違いがある。

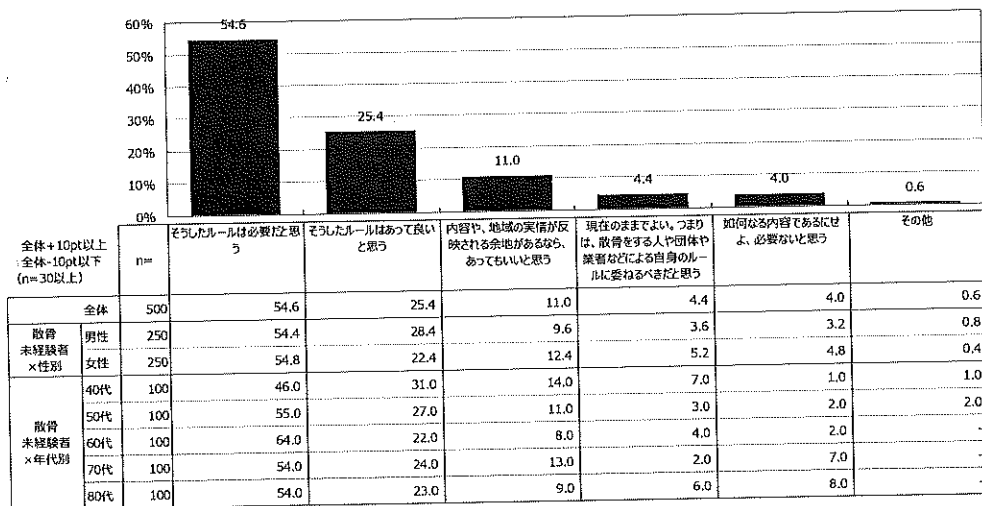
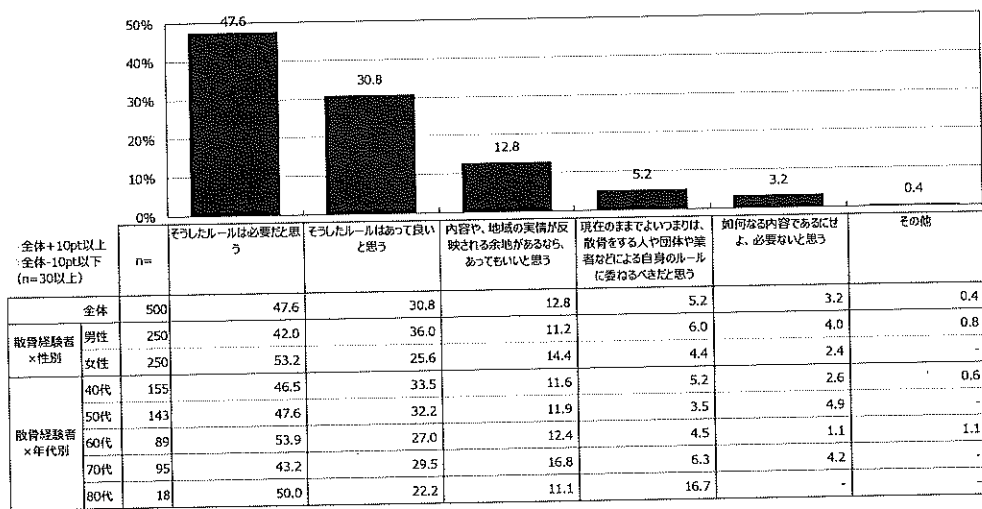
Q18 あなたは、「散骨」についてどのようにお考えですか。以下の中から最もあなたのお考えに近いものを1つお答えください。(お答えは1つ)



■散骨のガイドライン作成について

散骨経験者のうち、ガイドライン作成に対して、91.2%の人が必要と感じている。散骨未経験者のうち、散骨経験者と同様に、必要と感じている人の割合が、91.0%と高い。

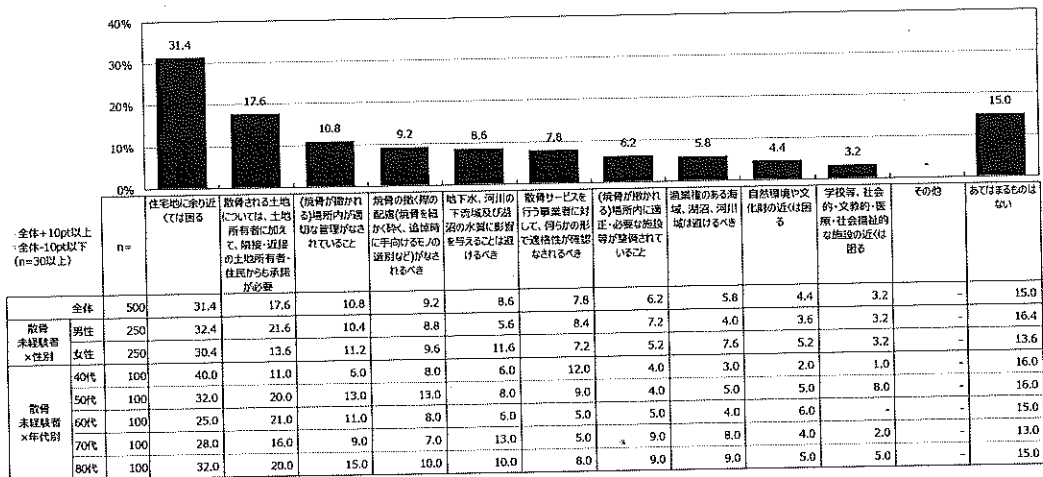
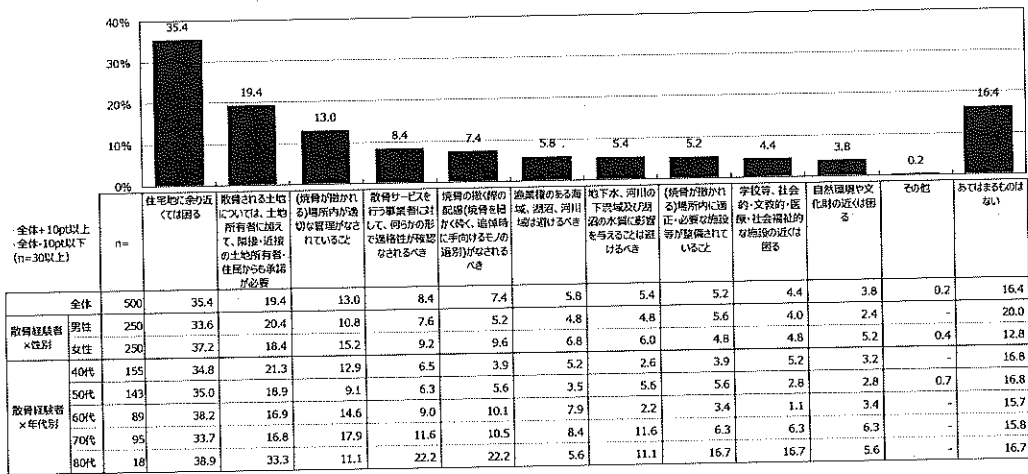
Q19 現在は、散骨を実際に行うには、幾つかの市町村では条例や規則で、一定のルールを定めてはいます。しかし、我が国に共通した具体的なルールが定められていません。地域の特性を配慮しつつ、全国に共通する大まかなガイドラインを作ることをどう思いますか。(お答えは1つ)



■散骨のガイドライン作成に考慮すべき点(第一希望)

散骨経験者、未経験者ともに最も多いのは、「住宅地との距離」で経験者が 35.4%、未経験者が 31.4%となっている。これに続くのは、経験者では「土地所有者、住民の承諾」が 19.4%、「場所の適切な管理」が 13.0%、「事業者の適格性」が 8.4%と続いている。未経験者では、「土地所有者や住民の承諾」が 17.6%、「場所の適切な管理」が 10.8%、「撒く際の配慮」が 9.2%と続いており、大きな差異はない。

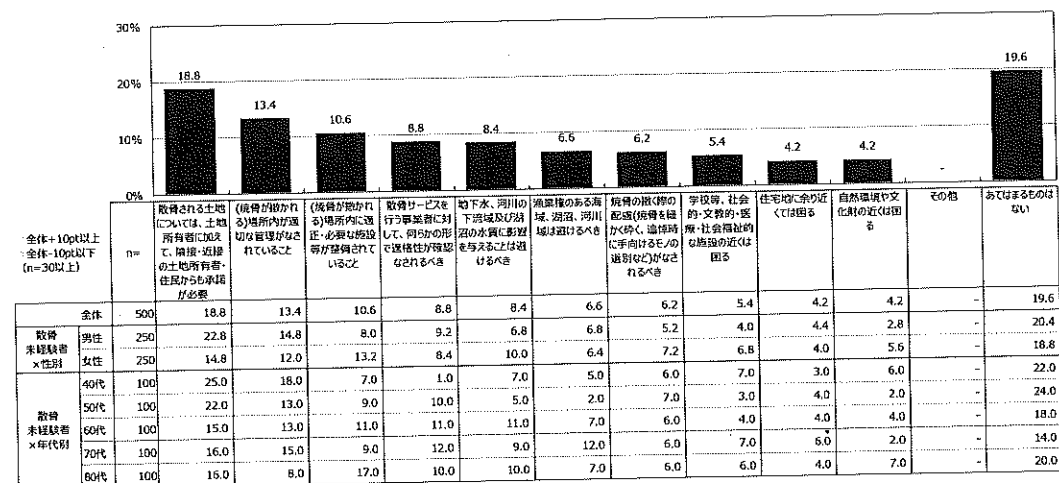
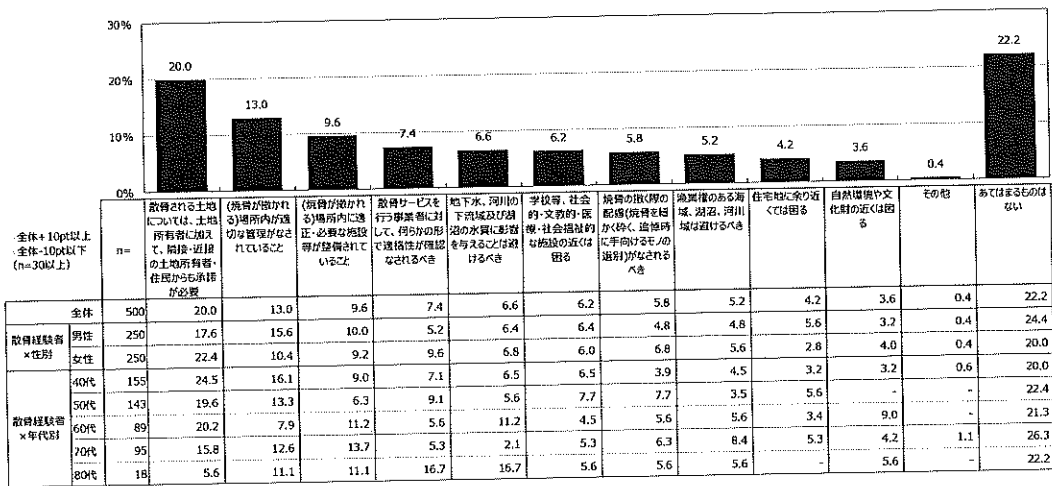
Q20S1 [第 1 希望]全国に共通する、散骨のガイドラインを作る場合、どのような点を考慮すべきだとお考えですか。優先される順に第一位から(可能であれば)第三位までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



■散骨のガイドライン作成に考慮すべき点(第二希望)

散骨経験者のうち、ガイドラインで考慮すべき点の第二希望は、「あてはまるものはない」が最も多く、22.2%、次いで「土地所有者、住民のからの承諾が必要」で 20.0%、続いて、「適切な管理がなされていること」13.0%、「適正・必要な施設などの整備」9.6%の順となっている。未経験者についても、経験者と同様の順で、「あてはまるものはない」が19.6%、「土地所有者、住民のからの承諾が必要」で18.8%、「適切な管理がなされていること」13.4%、「適正・必要な施設などの整備」10.6%となっている。

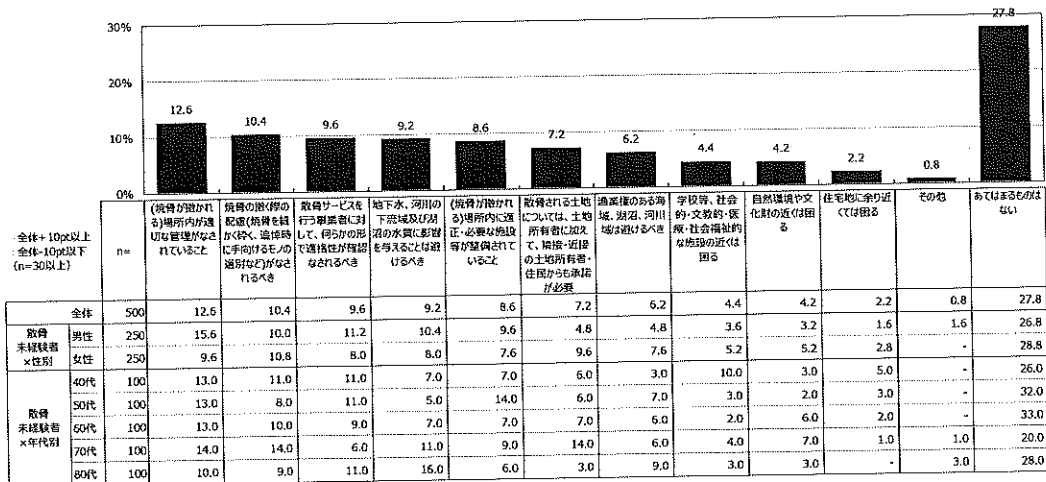
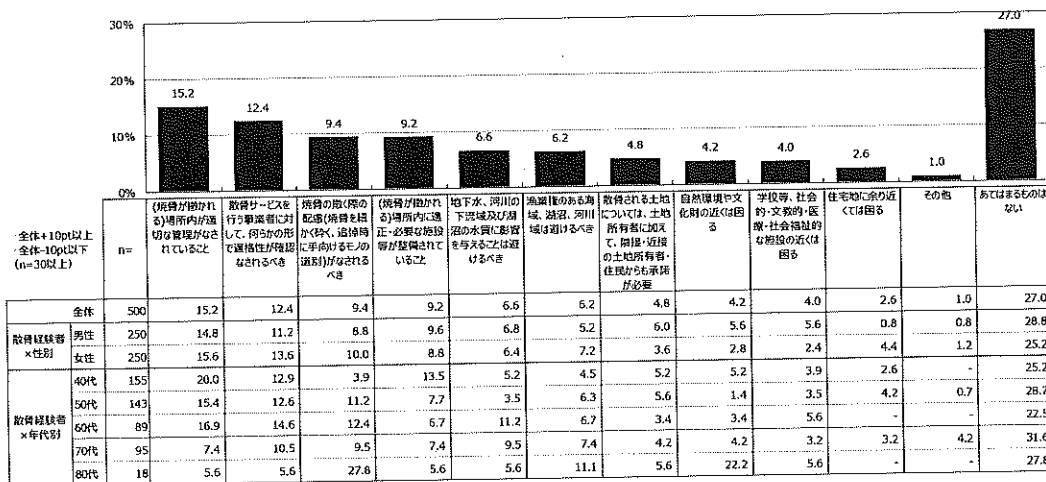
Q20S2 [第 2 希望]全国に共通する、散骨のガイドラインを作る場合、どのような点を考慮すべきだとお考えですか。優先される順に第一位から(可能であれば)第三位までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



■散骨のガイドライン作成に考慮すべき点(第三希望)

散骨経験者のうち、ガイドラインで考慮すべき点の第三希望は、「あてはまるものはない」が最も多く、27.0%。次いで、「適切な管理がなされていること」15.2%、「事業者の適格性の確認」12.4%、「焼骨の撒く際の配慮」9.4%と続く。未経験者の第三希望は、「あてはまるものはない」が最も多く、27.8%で、「適切な管理がなされていること」12.6%、「焼骨の撒く際の配慮」10.4%、「事業者の適格性の確認」9.6%となっている。散骨未経験者も基本的に同様の傾向である。

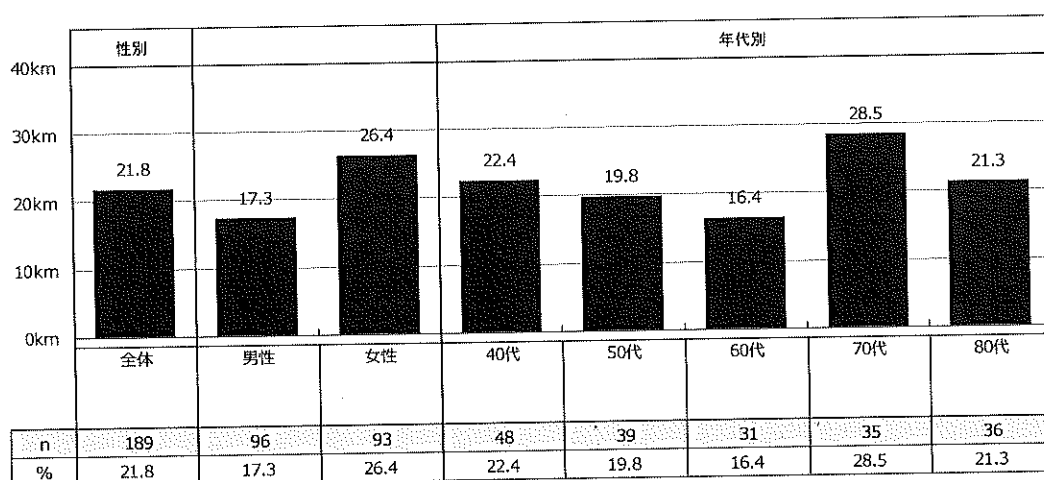
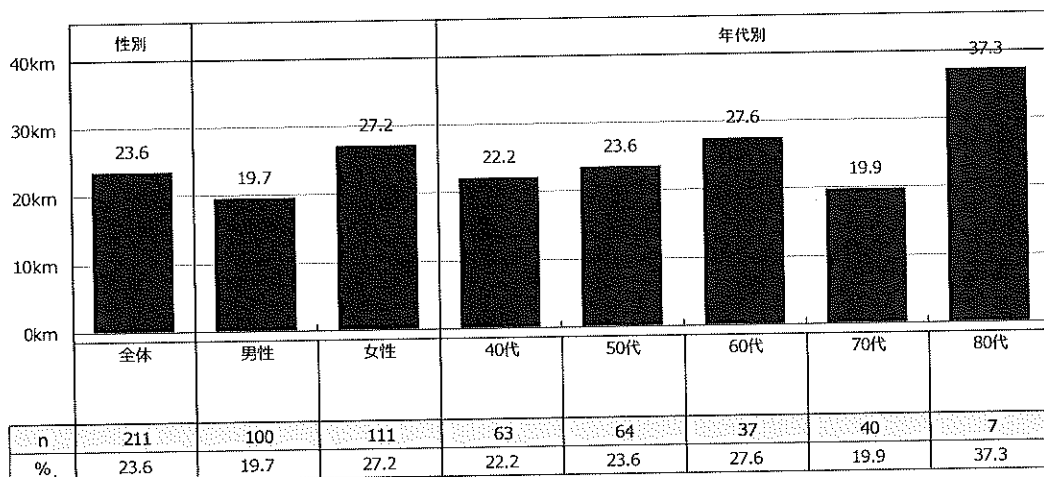
Q20S3 [第3希望]全国に共通する、散骨のガイドラインを作る場合、どのような点を考慮すべきだとお考えですか。優先される順に第一位から(可能であれば)第三位までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)



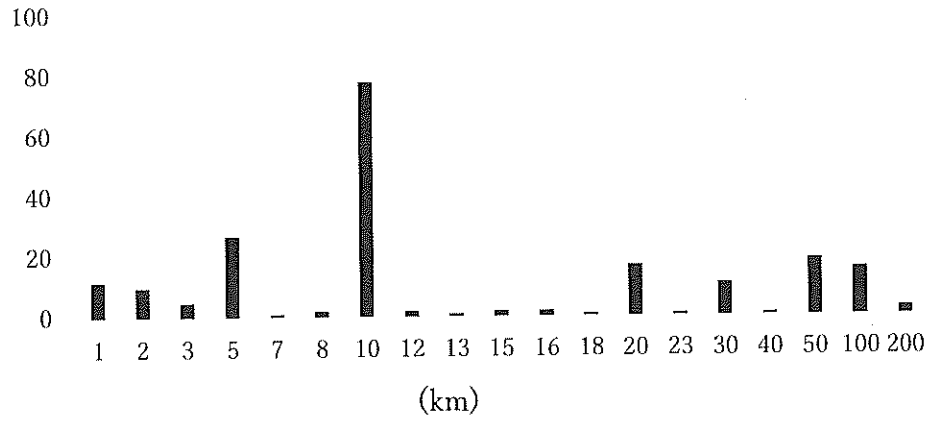
■ 住宅地から散骨場までに必要な距離

散骨経験者のうち、「住宅地に近くては困る」と回答した人が必要と考える距離の平均は、23.6km。男性より女性のほうが必要な距離が長い。散骨未経験者のうち、「住宅地に近くては困る」と回答した人が必要と考える距離の平均は、21.8km で、散骨経験者の距離より短い。散骨経験者同様、男性より女性のほうが必要な距離が長い。中央値では、散骨経験者、未経験者ともに 10.0km となった。

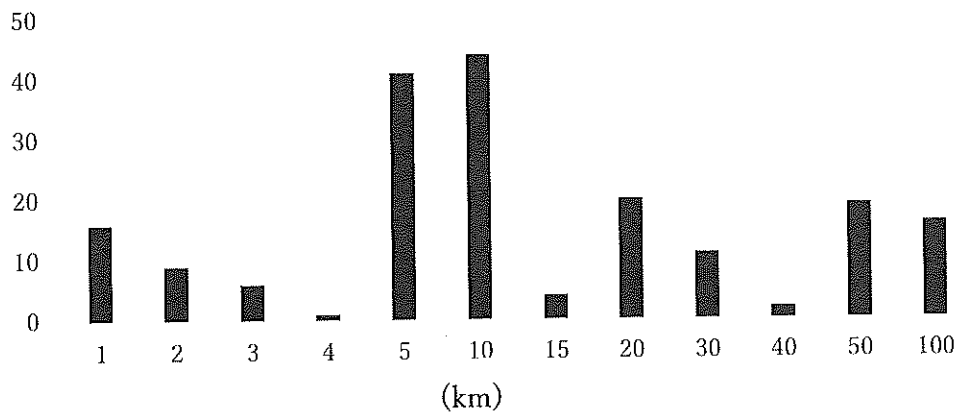
Q21T1 全国に共通する、散骨のガイドラインを作る場合、どのような点を考慮すべきかについて、「住宅地に余り近くては困る」と回答した方にお伺いします。具体的に、何 km 以上の距離が必要だと考えますか。住宅地からの距離(お答えは半角数字で)



距離ごとの回答者数（散骨経験者）



距離ごとの回答者数（散骨未経験者）

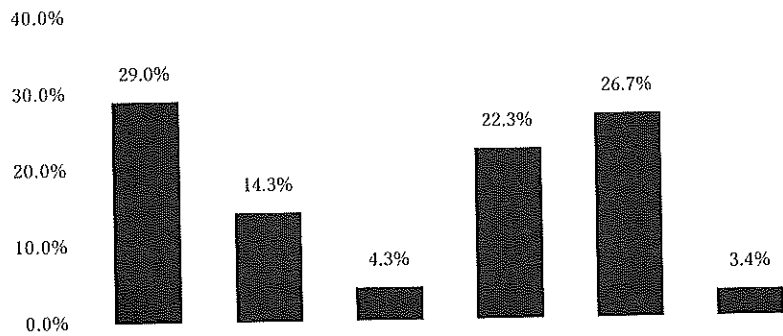


■お墓を持っている人の散骨に関する考え

「すべての焼骨を散骨して欲しい」と「一部を散骨、一部をお墓」、「一部を散骨、一部を手元供養」、「散骨はしてほしくない」の4つで分けると、全体では「すべて散骨が」29.0%、「一部散骨、一部お墓」が14.3%、「一部散骨、一部手元供養」が4.3%、「散骨してほしくない」が22.3%となっており、全体としてみると、「すべて散骨」は、3分の1程度にとどまっている。お墓を持っている人とお墓を持っていない人で見ると、お墓を持っている人は、「すべて散骨」の人は、22.4%とやや低く、「散骨をしてほしくない」人は、29.2%とやや高くなっている。持っていない人では、「すべて散骨」が38.5%とやや高く、「散骨をしてほしくない」人は、13.2%とやや高くなっている。

Q1 あなたは現在、「お墓」をお持ちですか。(お答えは1つ)

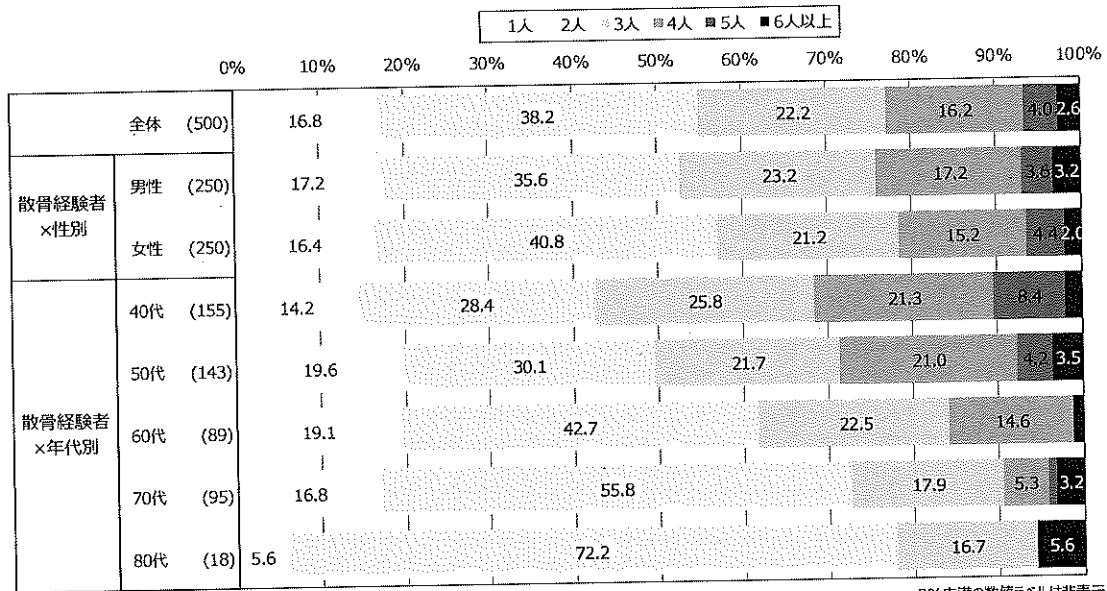
Q16 あなた自身がお亡くなりになられた場合に、ご自身のご遺骨(焼骨)の散骨についてはどのようにお考えですか。(お答えは1つ)



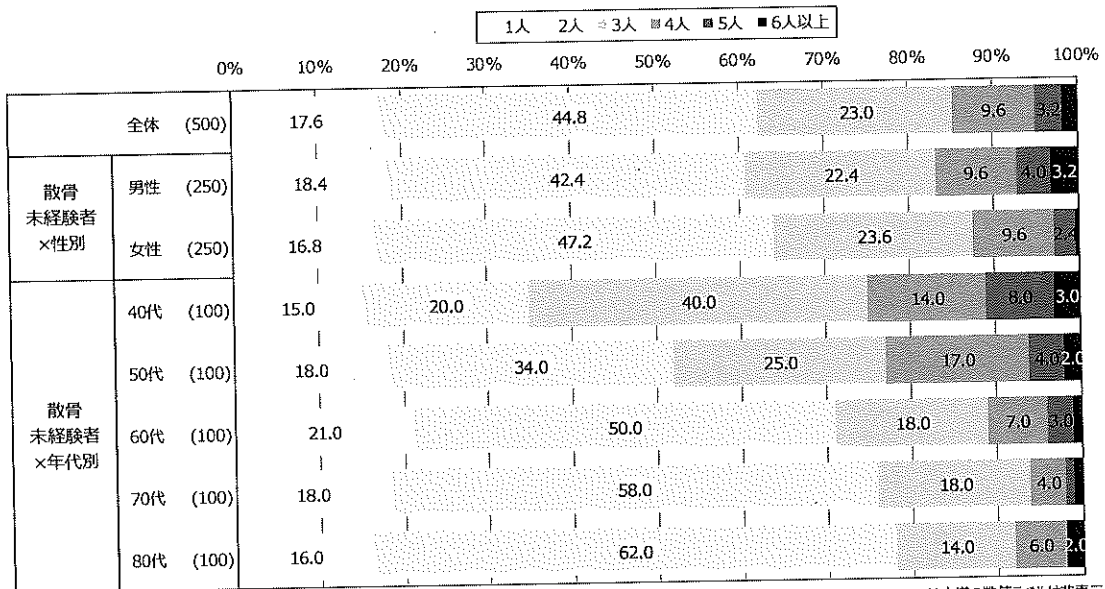
	n=	すべての焼骨を散骨して欲しい	一部の焼骨だけを散骨し、他の焼骨は「お墓」などの施設におさめて欲しい	一部の焼骨だけを散骨し、他の焼骨は仏壇など、家庭内の身近な処に置いて欲しい	散骨はして欲しくない	遺族の判断に委ねる	その他
全体	1000	29.0	14.3	4.3	22.3	26.7	3.4
持っている	571	22.4	17.3	3.3	29.2	25.0	2.6
持っていない	418	38.5	10.0	5.7	13.2	28.9	3.6
わからない	11	9.1	18.2	-	9.1	27.3	36.4

■同居人数

F5 あなた自身も含めた同居人(同一世帯)の人数をお答えください。(お答えは1つ)



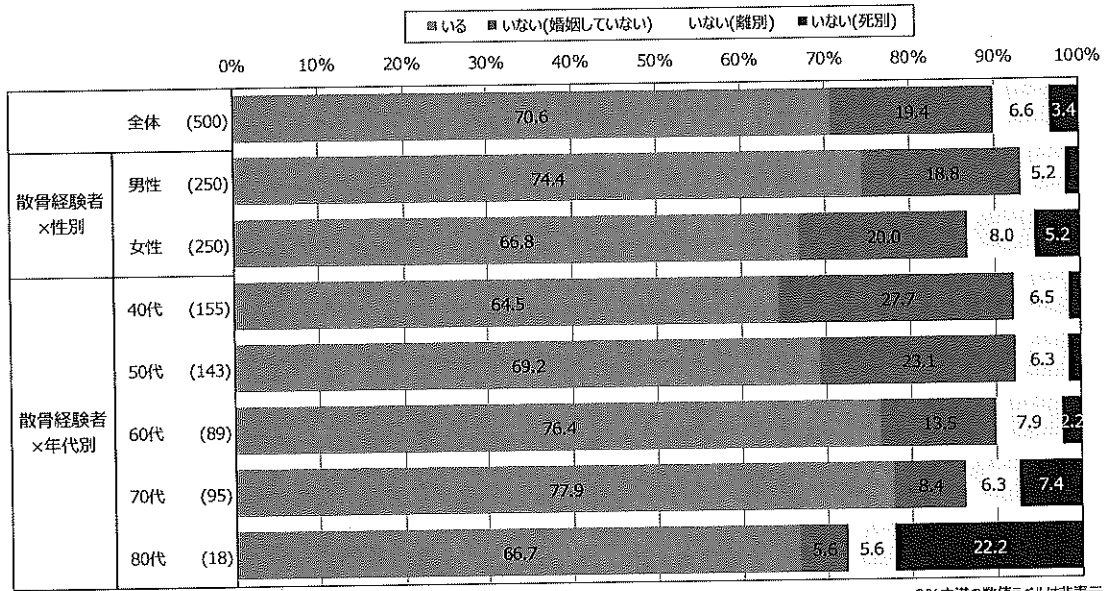
2%未満の数値ラベルは非表示



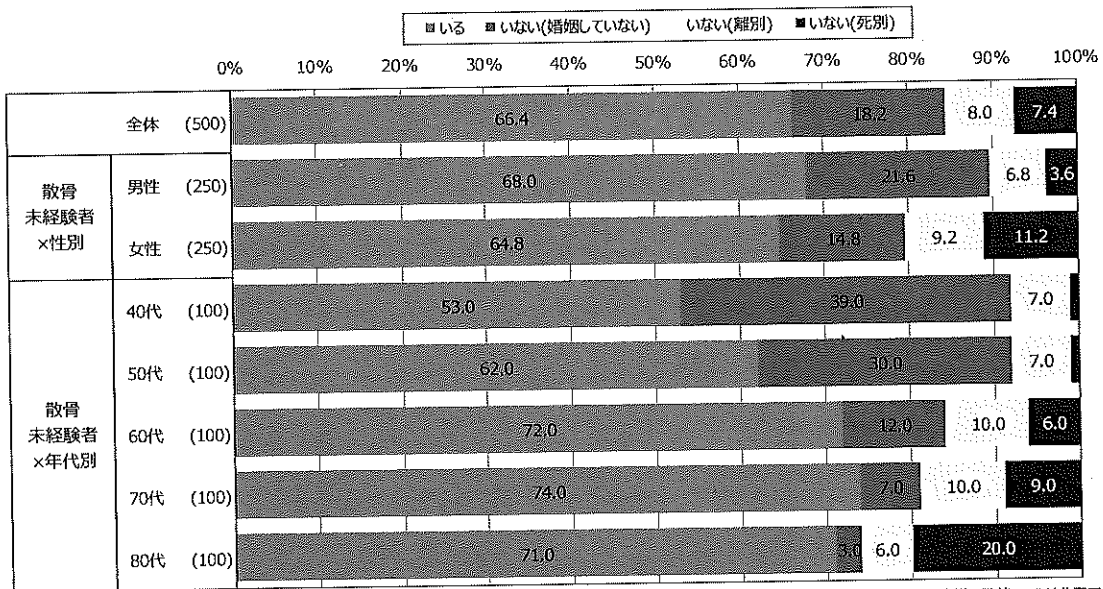
2%未満の数値ラベルは非表示

■ 婚姻

F6 あなたは、配偶者はいらっしゃいますか。(お答えは1つ)



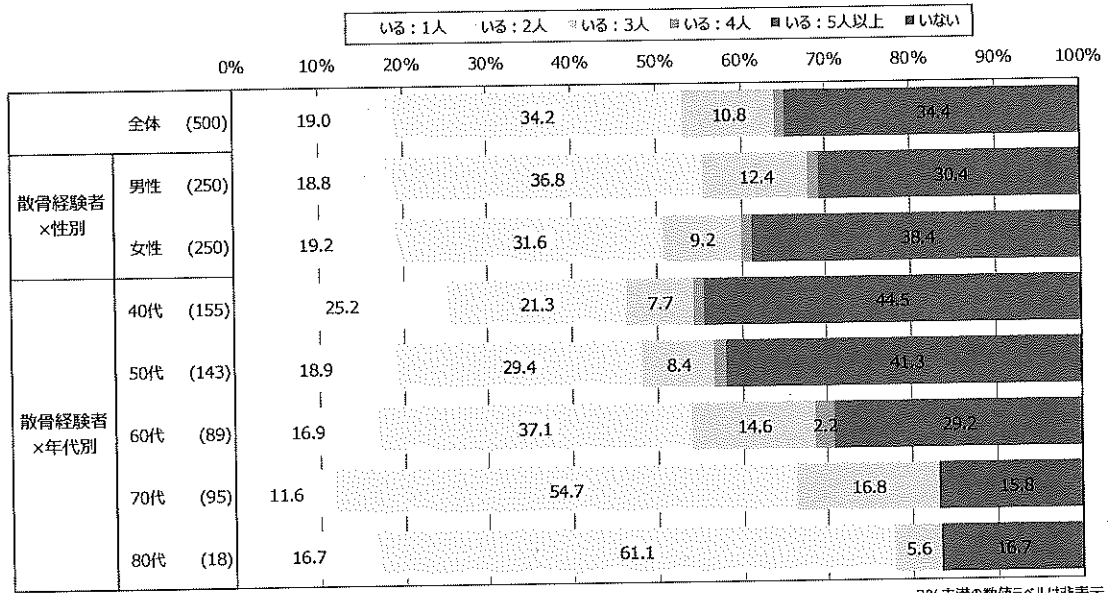
2%未満の数値ラベルは非表示



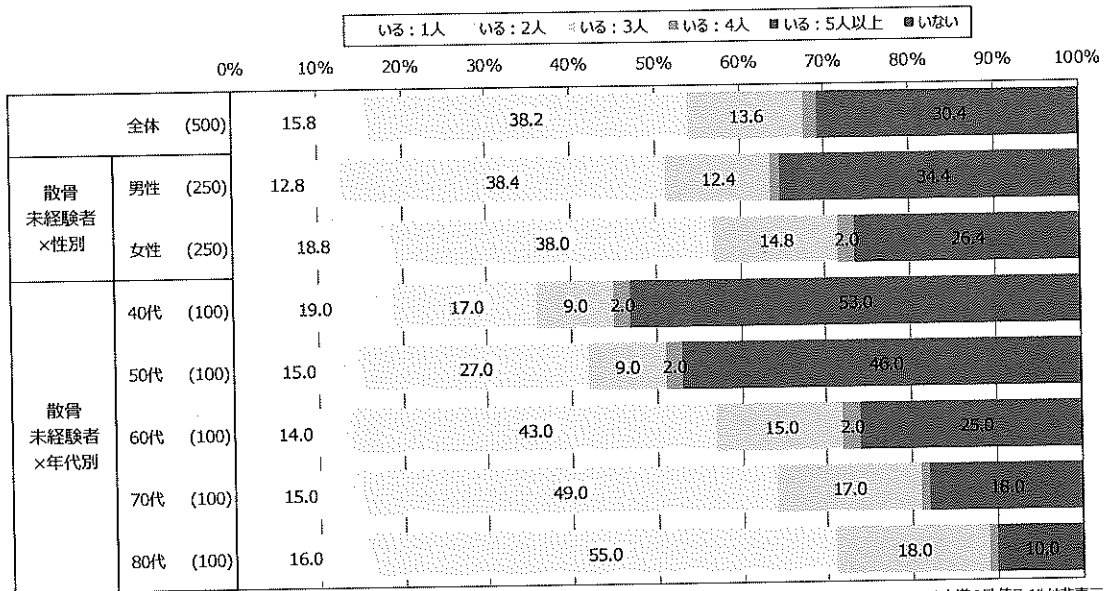
2%未満の数値ラベルは非表示

■ 子供有無

F7 あなたは、お子さまはいらっしゃいますか。(お答えは1つ)



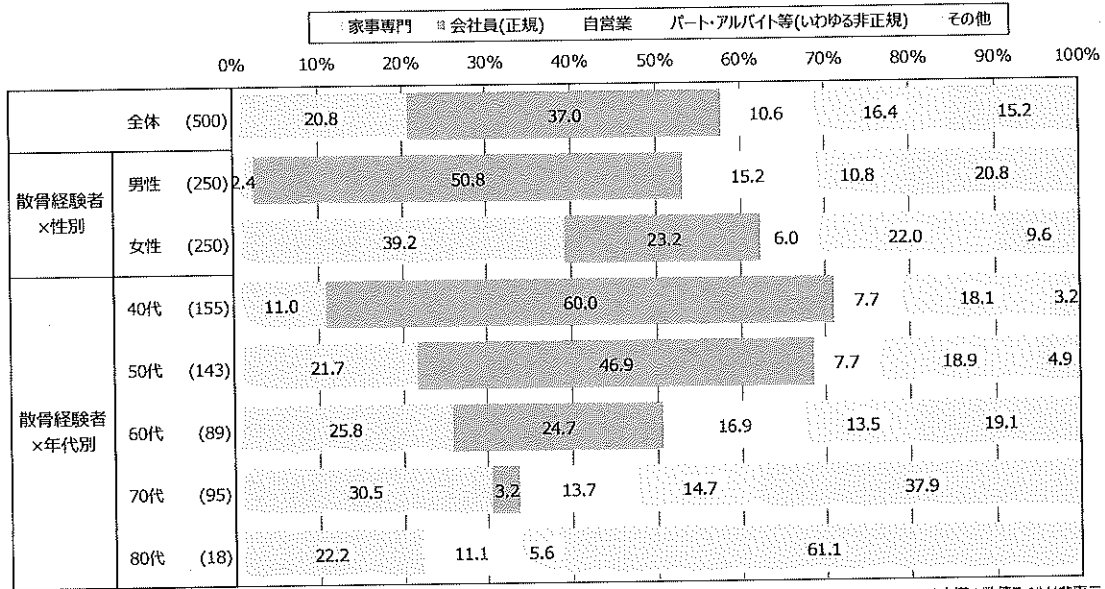
2%未満の数値ラベルは非表示



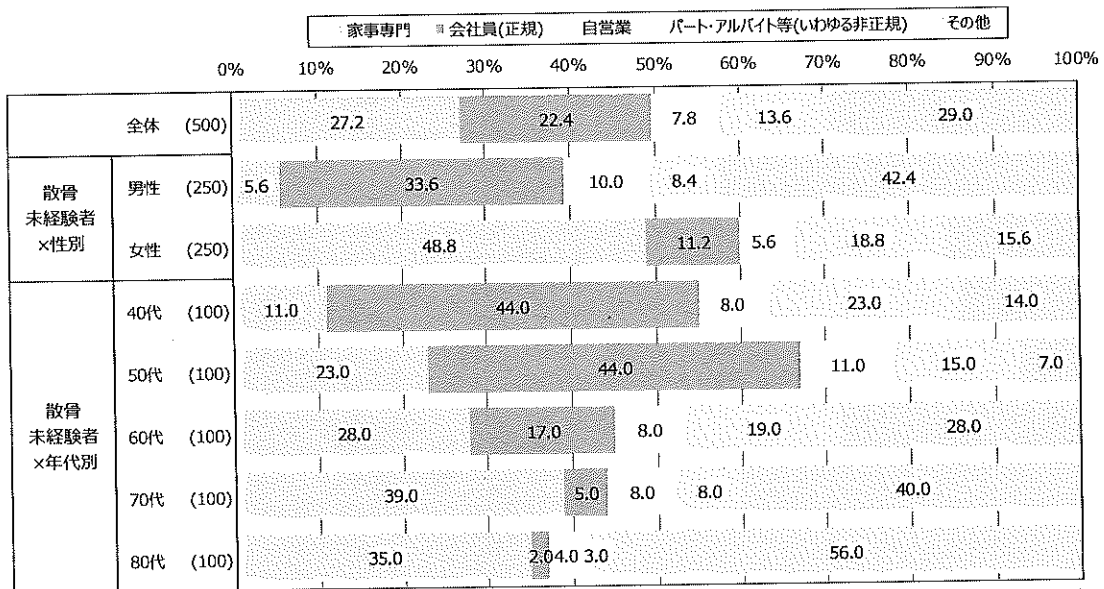
2%未満の数値ラベルは非表示

■ 職業

F8 あなたの職業をお答えください。(お答えは1つ)



2%未満の数値ラベルは非表示



2%未満の数値ラベルは非表示

以上

■質問フリーアンサーの抜粋（比較的回答の多いコメントを抜粋しています。）

Q8 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に散骨を行なった葬儀について、その際、ご遺骨(焼骨)はどのようにしましたか。(お答えは1つ)

回答「その他」

- ・一部だけで他は火葬場
- ・大部分を散骨しごく一部をお厨子に収め自身で供養できるうちは供養している

Q9 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に散骨を行なった葬儀について、散骨した場所について、最もあてはまるものをお答えください。(お答えは1つ)

回答「陸 →具体的にどのような場所でしたか」

- ・山林、山
- ・草原
- ・寺院

回答「海 →具体的には陸・港からどのぐらい離れていましたか」

- ・平均:40.8分
- ・最小:10分
- ・最大:180分

Q10 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に行った散骨について、何人くらいの人で立ち会い・見送りをしましたか？

回答「7人以上 →具体的な人数」

- ・平均:15.6人
- ・最大:30人

Q13 あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に行った散骨について、散骨された故人と、直接、散骨を行なった方は、どのようなご関係でしたか。

回答「その他」

- ・夫
- ・妻
- ・知人、友人

Q14: あなたが実際に散骨に立ち会った、あるいは身近な人が実際に行った散骨について、散骨した(あるいは「立ち会った」)後、良かった点と、困った点、不都合を感じた点について、各々ご記述ください。

- ・故人が望んだことが実現できた
- ・故人の遺志を尊重したこと
- ・墓守の苦勞を子供達にさせないですむ
- ・ボートが揺れて、酔いそうだった
- ・親族になかに反対するものがいた
- ・特になし(特に多数)

Q15 あなたの身近な方から散骨して欲しいと言われたらどうしますか。

回答「その他」

- ・わからない
- ・検討する

Q17 もし、地元で散骨場が設けられる計画が明らかになった場合、これに対するあなたのお気持ちについて、優先される順に第一位から(可能であれば)第三位までお答えください。(お答えはそれぞれいくつでも)※同位で考えているものがある場合、複数をお答えいただいて構いません。ただし、複数の希望順位で同じものを回答することはできません。※第2希望まで考えているものがある方は、第3希望では「あてはまるものはない」をお答えください。

回答「居住地から、一定程度離れたところであることが必要 →具体的に」

- ・平均:33.4km
- ・最小:10km
- ・最大:100km

回答「海に撒くのなら、陸地・港から一定程度は離れていることが必要 →具体的に」

- ・平均:20.5km
- ・最小:1km
- ・最大:100km

Q18 あなたは、「散骨」についてどのようにお考えですか。以下の中から最もあなたのお考えに近いものを1つお答えください

回答「その他」

- ・わからない
- ・特にない
- ・あまり賛成ではない

Q19 現在は、散骨を実際に行うには、幾つかの市町村では条例や規則で、一定のルールを定めています。しかし、我が国に共通した具体的なルールが定められていません。地域の特性を配慮しつつ、全国に共通する大まかなガイドラインを作ることをどう思いますか。

回答「その他」

- ・わからない
- ・特にない

Q22 散骨に関し、自由な意見をお聞かせください

散骨経験者

- ・認めてよいと思うが自然に影響がないようにしてほしい
- ・故人の意思で行われるなら良い
- ・遺族と亡くなられた方の意思を尊重したい
- ・土に返す、海に戻す、は自然だと思う
- ・環境に配慮し付近の環境も配慮し故人や遺族の意思を尊重して行ってほしいと思います。
- ・適正なルールがあれば散骨は社会的に認めるべきだと思う。
- ・一定のルールを守ったうえでの散骨なら許されると思う。
- ・お墓がないので、環境を侵さない場所に散骨してもらえたらと常々考えている。

散骨未経験者

- ・特になし(回答多数)
- ・故人の遺志で有ればかまわない
- ・散骨には賛成できない
- ・適切なルールを定めて積極的に行うべきである。
- ・散骨は基本的に反対である。
- ・個人意思によって、自由であるべき
- ・きっちりとした管理の下で行われるべき
- ・節度をもって環境、社会に迷惑をかけないのであればいい
- ・私は反対ですが、各個人の考えに反対はしません。

F8 あなたの職業をお答えください。

回答「その他」

- ・無職
- ・定年退職
- ・専業主婦
- ・年金受給者

以上